

兵庫県 こころのケアセンター

令和元年度事業報告書

はじめに

「こころのケア」については、阪神・淡路大震災で大きな社会的関心を集めることとなり、以後、国内外の多くの災害で提供されるようになりました。また、自然災害以外の事故においても心理的支援の必要性が認識され、さらには児童虐待やDV等への社会的関心が高まる中、平成16年に当センターが設置されるに至ったのです。

以来、阪神・淡路大震災の知見を研究や研修で伝えることのみならず、新たな災害への対処、様々なトラウマ被害者の支援と治療も重視し、国内外の災害への支援、そして併設した診療所で有効な治療の提供にも力を入れてきました。

令和元年度においても、様々な活動を行ってまいりました。

令和元年度は、阪神・淡路大震災から四半世紀が経過する節目の年であり、兵庫県こころのケアセンターが開設されてから15年を記念する年でもありました。

そこで、昨年11月7日に「災害とレジリエンス」をテーマとして、記念の「こころのケア国際シンポジウム」をポートピアホテルで開催し、240名の方に参加いただきました。当センターの15年の活動を振り返るとともに、米国からサイコロジカル・ファーストエイドの開発者の一人で国立PTSDセンターの教育専門官であるパトリシア・ワトソン先生、インドネシアからは災害精神保健看護の専門家であるエニ・ヌライニ・アグスティニ先生、また、国内からは、児童精神保健専門医でいわてこどもケアセンターの八木淳子先生、福島原発事故後の現地に寄り添い医療活動を続けてこられた福島県立医科大学の前田正治先生をお招きし、大変有意義なご講演をいただき、かつ活発なディスカッションがなされました。

調査研究においては、3年完結の長期研究の新たなスタート年となりました。研修では、特に自主事業としての特別研修に力を入れ、「子どものPTSDのアセスメント研修」等、6コースを開設しました。「ひょうごヒューマンケアカレッジ事業」では、兵庫県音楽療法士の養成講座の他、県民向けのヒューマンケア実践普及講座において、「終末期の暮らしを考える講座」、「グリーンケア講座」及び「アートとこころのケア講座」を実施しました。地域支援活動においても、東日本大震災や熊本地震への支援を継続したほか、京都アニメーション火災にかかるサポートに出向くなど、ニーズに応じた支援を行ってまいりました。

また、災害発生時の支援体制確立を図るため、兵庫県災害派遣精神医療チーム「ひょうごDPAT」の統括として県や神戸市と連携し、必要物品やマニュアル等の体制を整備するとともに、DPAT研修による実務者の育成、近畿各府県DPAT等との協力体制の充実を図っています。

本報告書は、令和元年度における当センターの活動をまとめたものです。

今後ますます高まる「こころのケア」への社会ニーズに対応していくため、職員が一体となって取組みを進めてまいりますので、是非とも本報告書をお読みいただき、忌憚のないご意見をいただければ幸甚です。

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構
兵庫県こころのケアセンター
センター長 加藤 寛

目次

I 兵庫県こころのケアセンターの概要

1 機能	3
2 施設概要（ゾーン配置）	4
3 組織	4

II 令和元年度の取り組み

1 実践的調査研究の展開	7
2 多様な研修の実施	10
3 相談室の運営	22
4 診療所の運営	25
5 地域支援活動の実施	27
6 兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」体制整備事業	29
7 「こころのケア国際シンポジウム」の開催	34
8 情報の発信	34
9 ひょうごヒューマンケアカレッジ事業の実施	35
10 その他受託事業	40
11 外部評価の実施	41

III 参考

1 こころのケア国際シンポジウム（抄録）	45
2 研究員の活動実績	52

I 兵庫県こころのケアセンターの概要

1 機能

兵庫県こころのケアセンターは、平成16年4月、「こころのケア」に関する多様な機能を有する全国初の拠点施設としてHAT神戸にオープンした。

本センターは大きく分けて五つの機能を持っており、それぞれの機能は次のとおりである。

(1) 研究機能

四つの研究部門を設け、精神科医や公認心理師の研究員が「こころのケア」に関する実践的研究を行っている。

部門	研究内容
第1部門	災害、事故等、同時に一つの出来事に遭遇した集団を対象とする、トラウマ・PTSDが与える影響及びその対応策に関する研究
第2部門	災害、事故、犯罪被害等、単発的な出来事に遭遇した個人を対象とする、トラウマ・PTSDの治療法や対処法に関する研究
第3部門	児童虐待、DV等、反復性のある出来事に遭遇した個人を対象とする、トラウマ・PTSDの治療法や対処法に関する研究
第4部門	様々なストレスによって生じる精神疾患の予防等に関する研究

(2) 人材養成・研修機能

保健・医療・福祉・教育等の分野で「こころのケア」に携わっている方々を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「専門研修」と「こころのケア」に関する知識や理解を深める「基礎研修」や「特別研修」を実施している。

その他、県民を対象に「音楽療法講座」や「ヒューマンケア実践普及講座」を開設している。

(3) 相談・診療機能

「こころのケア」に関する専門的な相談に応ずるとともに、附属診療所を運営している。

(4) 情報の収集発信・普及啓発機能

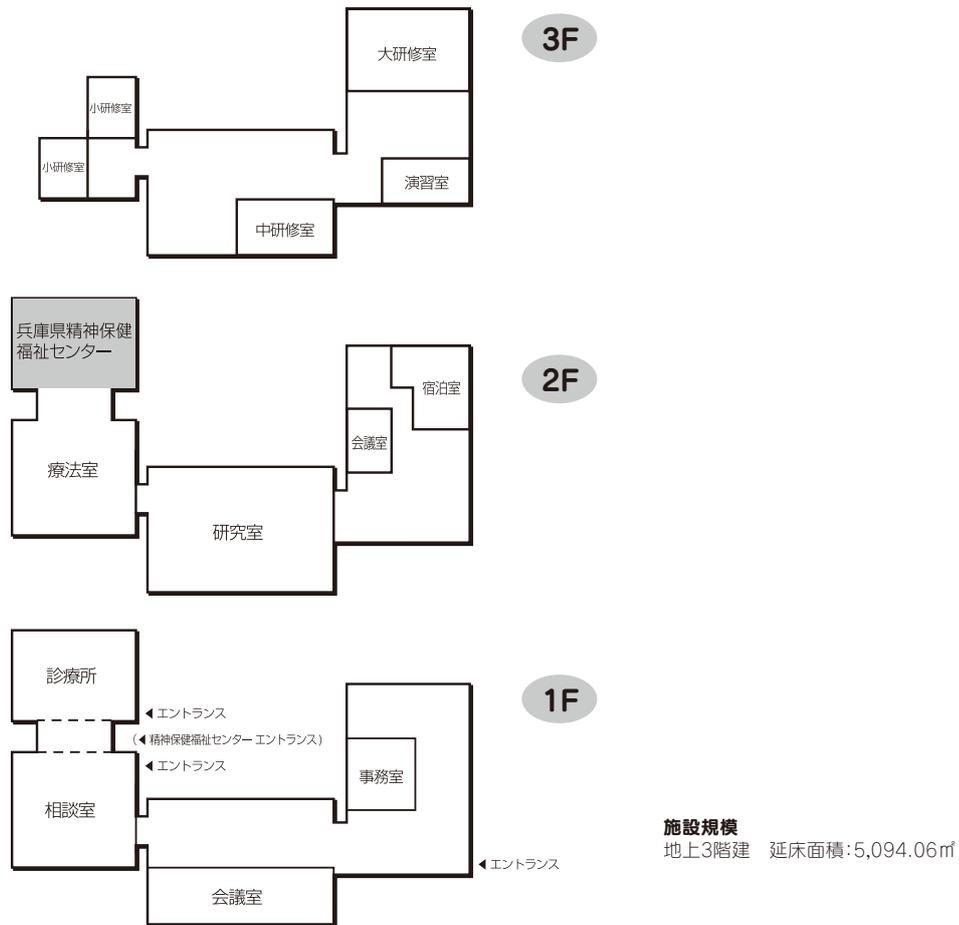
「こころのケア」に関する事例等を収集し、センターの研究成果と併せて、広く情報発信するとともに、普及啓発を行っている。

(5) 連携・交流機能

「こころのケア」に取り組む関係機関等の連携・交流の促進を図り、広域的なネットワークづくりを進めている。

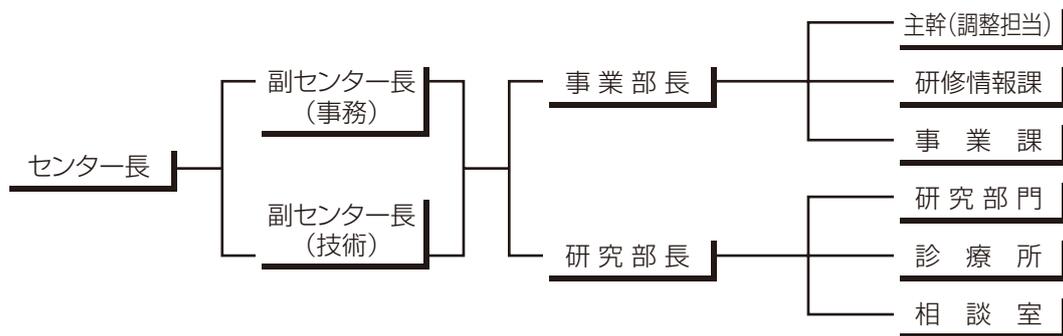


2 施設概要 (ゾーン配置)



*精神保健福祉全般を扱う精神保健福祉センターが併設されており、同センターとの連携のもとに、各種の取り組みを進めている。

3 組織



(職員構成)

(人)

区分	事務	医師	公認心理師	保健師	精神保健福祉士	看護師	計
常勤	5	3	2	1	1		12
非常勤嘱託	5		3				8
精神保健福祉センター兼務	1						1
日々雇用	1					1	2
計	12	3	5	1	1	1	23

II 令和元年度の取り組み

1 実践的調査研究の展開

年度完結の「短期研究」と、3年程度の研究期間を設定し長期的な視点に立つて行う「長期研究」の2本立てで調査研究を行った。

また、「こころのケア」に関連した研究に取り組んでいる研究機関との情報交換等を通じ、研究内容の向上を図った。

【短期研究】

研究テーマ	概要
被害者が抱える罪悪感の分析	罪悪感とは事件・事故の被害者の大きな苦しみとなり、特に生き残りによる罪悪感、サバイバーギルトは場合によっては回復を妨げるものとなる。近年のテロ、自然災害増加の文脈から言及されることの多いこのサバイバーギルトであるが、どのようなものであるか実際にはよくわかっていない。そこで、過去の研究の文献展望を行い、その概念、定義、特質、有効な治療法についての知見を明らかにし、今後の支援、研究に役立てるものとした。
遺されたきょうだいのレジリエンス	外傷的な出来事によって、予期せず大切な家族を失うことには大きな苦痛が伴う。しかし、わが国において、外傷的な喪失に関する研究は乏しく、中でも外傷的な出来事によりきょうだいを失った「遺されたきょうだい」を対象にした調査は十分ではない。そこで、文献レビューにより、外傷的な喪失を経験した、きょうだい特有の体験や反応及びその回復に必要な要因を整理し、遺されたきょうだいに対する理解を深める資料とした。
一時保護されたDV被害女性と子どもの実態把握に関する研究	兵庫県女性家庭センターに一時保護されるDV被害女性や同伴児は多種多様な問題を抱えている。そこで、本研究では、入所中の親子を対象に基本属性の整理、過去のトラウマエピソード、現在の生活習慣や子どもの発達に関する問題の実態を明らかにし、今後一時保護される親子の支援ニーズを的確に捉えるための資料とした。
PTSD患者にみられる神経心理学的症状に関する研究	PTSDは強度のストレス体験を契機に発症する疾患であり、その症状は心理的問題に留まらず、脳部位の構造的変化に伴う機能低下も引き起こす可能性が指摘されているが、わが国において成人を対象としたPTSD症状と神経心理学的症状の関連についての研究は少ない。本研究では遂行機能検査であるBADSと、PTSD症状アセスメント尺度であるCAPS-5をトラウマ体験を有する患者15名に実施した。結果、遂行機能「障害」水準での機能低下は認められなかったものの、PTSD診断基準のすべてを満たす群では、満たさない群に比べて短期記憶の保持や、ルール変更への柔軟な対応、そして目的達成のために逆算して計画を立て実行に移す問題解決能力が低下しやすいことが示唆され、今後の治療およびアセスメントに役立てる資料とした。

【長期研究】

研究テーマ	概要
大規模災害の被災者を対象とした包括的心理社会状況評価ツールの開発に関する研究	1995年の阪神・淡路大震災以降、被災者に対する精神保健・心理社会的支援の重要性が広く認識されるようになった。災害後、急性期は災害派遣精神医療チーム、中長期的には各被災地の「こころのケアセンター」が対応に当たっている。しかし、被災者のニーズを包括的に評価できるツールが不足している。そこで本研究は、将来起こり得る災害に備え被災者の精神保健・心理社会的問題とニーズを包括的に評価できるツールの開発に向け、これまでの日本の災害後の調査実態をレビューし、調査票の試案を作成した。
トラウマ被害者へのNarrative Exposure Therapyの普及・啓発に関する研究	Narrative Exposure Therapy（以下NET）は、組織的暴力により難民が負ったPTSDの治療法として開発された短期の認知行動療法である。その有効性のエビデンスは多く蓄積されており、実施者を増やしやすい特徴からも、事故・災害後のPTSDの治療法となり得る。NETは近年組織的暴力のみならず家庭内の暴力や自然災害など、市民生活の中で遭遇する出来事によるPTSDへの有効が多く報告されている。そこで、NETの先行研究について文献展望を行い、特にその市民生活由来のトラウマへの有効性と適応を検証し、わが国へのNET導入と人材育成のプロセスについて検討した。
災害救援組織に対する外部支援のあり方に関する研究	災害救援者が被る惨事ストレスの影響とそれに対する支援はこの20年で漸進し、組織内には影響を受けた職員に対応するための制度が整いつつある。しかし、殉職や地域を巻き込む災害が起こると、組織内の制度だけでは対応が難しく、外部組織との連携が必要になる。だが、外部組織との連携は簡単ではない。そこで、地域の専門組織や支援者が災害救援組織と平時や有事を問わず連携を取れるようになるためのシステム作りを目指し、3年研究の1年目である本研究では過去に実施された支援活動を概観し、今後の課題を同定した。

(注) 長期研究の研究期間は令和元年度から令和3年度とする。

【こころのケア研究推進協議会】

(開催年月日) 令和2年3月17日(火)

(参集機関) 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター
神戸大学大学院保健学研究科
徳島大学大学院社会産業理工学研究部
兵庫県こころのケアセンター

※上記のとおり予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。

【兵庫県こころのケアセンター倫理審査委員会】

兵庫県こころのケアセンターに所属する研究員等が行う、人間を直接対象とした研究に関し、ヘルシンキ宣言の趣旨に則して行われるよう、個人の尊厳及び人権の尊重、個人情報の保護、その他の倫理的及び科学的観点から審査することを目的として、兵庫県こころのケアセンター倫理審査委員会を設置している。審査状況は下記のとおりである。

回数	開催日	受付番号	研究課題名	判定結果 (判定日)
1	R元.6.6	30-3の3	大規模交通災害が心身の健康に及ぼす長期的な影響に関する研究	承認 (R元.7.25)
		元-1	一時保護されたDV被害女性と子どもの実態把握に関する研究	承認 (R元.6.6)
		元-2	遺されたきょうだいのレジリエンスに関する研究	条件付承認 (R元.6.6)
		元-2の2	同上	承認 (R元.7.25)
		元-3	PTSD患者にみられる神経心理学的症状に関する研究	承認 (R元.6.6)
		元-4	日本での複雑性悲嘆の社会認知に関する研究	条件付承認 (R元.6.6)
		元-4の2	同上	承認 (R元.7.25)
		元-5	被害者が抱える罪悪感の研究	変更の勧告 (R元.6.6)
		元-5	同上	取り下げ
		元-6	TF-CBTコンサルテーション・システムの構築とその有用性の検証	承認 (R元.6.6)
元-7	地域精神科医療機関におけるトラウマインフォームドケアの普及啓発についての研究	承認 (R元.6.6)		

2 多様な研修の実施

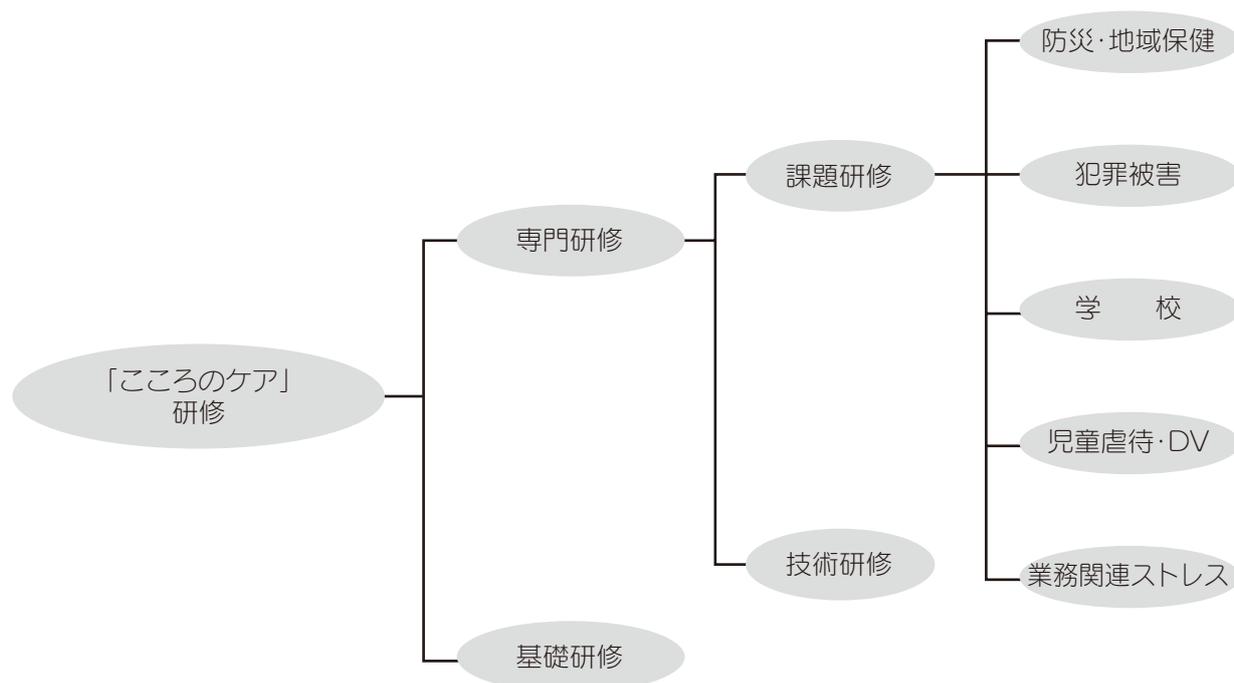
令和元年度は、2期（1期：令和元年7月～10月、2期：令和2年1月～2月）に分け、以下の研修体系に基づき、専門研修13回、基礎研修1回の計14回実施した。

基礎研修である「子どもの領域におけるトラウマインフォームド・ケア」をはじめ、国内唯一のSPR認定トレーナーの資格を持つ当センター研究員による「被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケア - サイコロジカル・リカバリースキル (SPR) -」や「対人支援職のためのセルフケア」等の専門研修コースを実施し、開設以来16年連続で、こころのケア研修全体の受講者数（特別研修を除く）は725人と定員（505人）を超える人数を確保した。

平成26年度より開催している特別研修については、「子どものPTSDのアセスメント」及び「TF-CBT Introductory Training」を各2回、さらに「親子複合型認知行動療法～CPC-CBT イントロダクトリー」、「PTSD 構造化面接 -CAPS を理解する」の計6コースを実施した。

また、研修内容の一層の向上をめざし、「こころのケア」に関連した研修を行っている関係機関と情報交換を行った。

【研修体系】



【実施状況】

(単位：人)

期	区分	コース名	期 間	対 象	定員	受講者数
1期	専門	被災者や被害者をささえるために－サイコロジカルファーストエイドを学ぶ－	7/4・5 (2日間)	学校・社会福祉協議会・病院等の精神保健福祉関係者	25	14
		消防職員のための惨事ストレスの理解と予防	7/17・18 (2日間)	消防職員	35	76
		学校版サイコロジカルファーストエイドに基づくこころのケア	8/2 (1日間)	教職員・スクールカウンセラー・その他子どものこころのケアの実務者	35	41
		対人支援職のためのセルフケア	8/7・8 (2日間)	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者(保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等)、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	35	55
		悲嘆の理解と遺族への支援	8/28・29 (2日間)	医療・保健・福祉・心理臨床の分野で活動する者及び遺族支援に携わる者	35	45
		DV被害者のこころのケア	9/18 (1日間)	母子自立支援員、女性相談員(婦人相談員)、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター(児童相談所)職員等DV被害者相談支援関係職員	35	49
		被害者や被災者を支えるために－サイコロジカル・リカバリースキル(SPR)－	9/25・26 (2日間)	医師、臨床心理士、看護師、保健師、精神保健福祉士、その他関連領域の関係者	35	39
	犯罪被害とこころのケア	10/17・18 (2日間)	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員	25	22	
基礎		子どもの領域におけるトラウマインフォームド・ケア～トラウマを「見える化する」支援を学ぶ～	7/24 (1日間)	保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員	80	96
小 計					340	437
2期	専門	消防職員のための惨事ストレスの理解と予防	1/15・16 (2日間)	消防職員	35	46
		発達障害とトラウマ	1/30 (1日間)	こども家庭センター(児童相談所)職員、福祉事務所職員等児童虐待関係職員、保健所職員、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	35	75
		子ども達のいじめのケア－加害と被害の連鎖－	2/13 (1日間)	教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、こども家庭センター(児童相談所)職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員、児童福祉施設職員、司法関係職員	35	79
		対人支援職のためのセルフケア	2/20・21 (2日間)	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者(保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等)、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	35	49
		消防職員のための惨事ストレスの理解と予防(ステップアップ)	2/26・27 (2日間)	消防職員	25	39
小 計					165	288
合 計					505	725

(注) コースによって 1,300～4,100 円の受講料を徴収

(県内・県外の別)

(人)

県内	県外	計 (%)
329 (45.4)	396 (54.6)	725 (100.0)

〈県外の内訳〉

(人)

大阪	京都	滋賀	岡山	奈良	和歌山	広島	鳥取	愛知	香川	愛媛	千葉	島根
138	39	24	22	17	17	17	15	14	11	10	9	9

徳島	静岡	高知	埼玉	三重	大分	宮城	茨城	東京	神奈川	長野	福岡	佐賀
9	6	6	5	4	3	2	2	2	2	2	2	2

鹿児島	北海道	福島	栃木	福井	山口
2	1	1	1	1	1

(男女別)

(人)

男性	女性	計 (%)
273 (37.7)	452 (62.3)	725 (100.0)

【コース別実施内容】

被災者や被害者をささえるためにーサイコロジカルファーストエイドを学ぶー

(第1期 専門・課題研修)

1 対象・定員

学校・社会福祉協議会・病院等の精神保健福祉関係者 25人

2 目的

万が一の大災害や大事故で被害を受けた人たちに対して、直後に行える介入としてのサイコロジカルファーストエイドの基本についての理解を深める。

3 期間

令和元年7月4日(木)・5日(金) 2日間

4 日程

(1) 1日目(7月4日)

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30~10:45	開講・オリエンテーション		
10:45~12:15	講義「『こころのケア』とは」	兵庫県こころのケアセンター:田中英三郎主任研究員(医師)	
12:15~13:15	<休憩>		
13:15~14:40	講義「災害の影響から健康を守るためにできること」	人と防災未来センター:高岡誠子研究員	
14:40~15:00	<休憩・移動>		
15:00~17:00	人と防災未来センター 「語り部講話」及び(*)施設見学	人と防災未来センター	※施設見学は希望者のみ

(2) 2日目(7月5日)

時間	カリキュラム	講師	備考
9:30~12:00	講義「サイコロジカルファーストエイド」	兵庫県こころのケアセンター:大澤智子研究主幹(公認心理師)	
12:00~13:00	<休憩>		
13:00~13:30	こころのケアセンター施設見学		※希望者のみ
13:30~16:30	講義「サイコロジカルファーストエイド」(演習を含む)	大澤智子研究主幹	
16:30~16:45	受講証交付・アンケート記入		

5 その他

「人と防災未来センター」との共催により実施

消防職員のための惨事ストレスの理解と予防

(第1期 専門・課題研修)

1 対象・定員

消防職員 35人

2 目的

大規模災害時等、極めて悲惨な現場において活動したことにより生じる惨事ストレスに対する理解を深める。

3 期間

令和元年7月17日(水)・18(木) 2日間

4 日程

(1) 1日目(7月17日)

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30~10:45	開講・オリエンテーション		
10:45~12:00	講義「惨事ストレスとは」	兵庫県こころのケアセンター:加藤寛センター長(医師)	
12:00~13:00	<休憩>		
13:00~14:30	事例検討「惨事ストレスへの対応」	神戸市消防局警防部:星野誠治司令課長 ※進行:加藤寛センター長	
14:30~14:45	<休憩>		
14:45~16:30	演習「惨事ストレス対応」 (グループ討議)・予想される事態・職場での対応	加藤寛センター長 大澤智子研究主幹(公認心理師)	
16:30~17:00	施設見学		※希望者のみ

(2) 2日目(7月18日)

時間	カリキュラム	講師	備考
9:50~10:00	事務連絡		
10:00~12:00	講義「ストレスマネジメント」	兵庫県こころのケアセンター:大澤智子研究主幹	
12:00~13:00	<休憩>		
13:00~14:00	講義「コミュニケーションの基礎」	大澤智子研究主幹	
14:00~14:10	<休憩>		
14:10~16:00	演習「傾聴ロールプレイ」	加藤寛センター長 大澤智子研究主幹	
16:00~16:15	受講証交付・アンケート記入		

1 対象・定員

教職員・スクールカウンセラー・その他子どものこころのケアの実務者 35人

2 目的

本研修コースでは、子どものこころのケアの基本的な態度と考え方を学ぶと共に、災害時にいかに子どもたちの心の回復力を促進していくことができるかについて参加者同士で議論を深めていきます。そして、子どもに関わる実務者の災害への準備性を高めるとともに、日常の心理的支援の力を高めていくことも目指します。

3 期間

令和元年8月2日（金）1日間

4 日程

時間	カリキュラム	講師	備考
9:30～9:45	開講・オリエンテーション		
9:45～12:30	講義「災害と子どもの心のケア」	兵庫県こころのケアセンター:田中英三郎主任研究員(医師)	
12:30～13:30	〈休憩〉		
13:30～14:45	演習「学校版サイコロジカルファーストエイドを理解する」	田中英三郎主任研究員	
14:45～15:00	〈休憩〉		
15:00～16:30	演習の続き「総合討論」	田中英三郎主任研究員	
16:30～16:45	受講証交付・アンケート記入		

5 コース概要

災害時に学校は子どものこころのケアに当たる中心的組織です。本研修では、主に学校で子どものケアに当たる実務者を対象に、サイコロジカルファーストエイド学校版に基づいた災害時の子どもの心理援助法について学びます。具体的には以下のような内容を含みます。

- ・危機管理サイクルと緊急時総合調整システム
- ・子どもとの良好な関係性構築のための演習
- ・悲嘆についての理解
- ・ストレスやトラウマが子どもに与える心理的影響
- ・心理教育
- ・ストレス対処法
- ・サポートネットワーク

なお、サイコロジカルファーストエイド学校版は兵庫県こころのケアセンター HP からダウンロード可能です (http://www.j-hits.org/psychological_for_schools/index.html)。

注意事項

本研修はサイコロジカルファーストエイド学校版の公式研修ではありません。また、研修内容は H28-29 年度に、科研費の助成で実施した「学校でできる子どものこころのケア」と一部重複する内容が含まれています。

本研修受講に当たっては特別な予備知識は必要ありませんが、事前にサイコロジカルファーストエイド学校版をダウンロードし閲覧していただければより理解が深まります。

対人支援職のためのセルフケア

(第1期 専門・課題研修)

1 対象・定員

保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者（保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等）、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等 35人

2 目的

対人支援業務によって生じる自らのストレスを理解し、その対処法を習得する。

3 期間

令和元年8月7日（水）・8日（木）2日間

4 日程

(1) 1日目（8月7日）

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30～10:45	開講・オリエンテーション		
10:45～12:15	講義「ストレスとは」	兵庫県こころのケアセンター：桃田茉莉子研究員（公認心理師）	
12:15～13:15	〈休憩〉		
13:15～16:30 (14:45～15:00休憩)	講義「ストレスマネジメント」	兵庫県こころのケアセンター：鈴木逸子主任研究員（公認心理師）	
16:30～17:00	施設見学		※希望者のみ

(2) 2日目（8月8日）

時間	カリキュラム	講師	備考
9:50～10:00	事務連絡		
10:00～12:00	講義「二次受傷とは」	兵庫県こころのケアセンター：大澤智子研究主幹（公認心理師）	
12:00～13:00	〈休憩〉		
13:00～16:00	演習「キャリアの振り返り」 質疑応答・総括	（ファシリテーター） 大澤智子研究主幹	
16:00～16:15	受講証交付・アンケート記入		

悲嘆の理解と遺族への支援

(第1期 専門・課題研修)

1 対象・定員

医療・保健・福祉・心理臨床の分野で活動する者及び遺族支援に携わる者 35人

2 目的

死別を経験した際に生じる悲嘆反応の知識について学び、遺族への対応と治療の実際を知る。

3 期間

令和元年8月28日（水）・8月29日（木）2日間

4 日程

(1) 1日目（8月28日）

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30～10:45	開講・オリエンテーション		
10:45～12:15	講義「悲嘆の基本的理解」	関西学院大学：坂口幸弘教授	
12:15～13:15	〈休憩〉		
13:15～14:45	講義「遺族対応の基本」	国際医療福祉大学：白井明美准教授	
14:45～15:00	〈休憩〉		
15:00～16:30	講義「日常臨床でのグリーフケア」	神戸赤十字病院：村上典子心療内科部長	
16:30～17:00	施設見学		※希望者のみ

(2) 2日目（8月29日）

時間	カリキュラム	講師	備考
10:20～10:30	事務連絡		
10:30～12:00	講義「複雑性悲嘆について」	兵庫県こころのケアセンター：加藤寛センター長（医師）	
12:00～13:00	〈休憩〉		
13:00～14:30	グループ討議「遺族の体験に学ぶ」	*遺族の方にお話を聞く （ファシリテーター） 加藤寛センター長	
14:30～14:45	〈休憩〉		
14:45～16:15	講義「自殺と悲嘆」	兵庫県こころのケアセンター：田中英三郎主任研究員（医師）	
16:15～16:30	受講証交付・アンケート記入		

DV被害者のこころのケア

(第1期 専門・課題研修)

1 対象・定員

母子自立支援員、女性相談員（婦人相談員）、婦人保護施設職員、母子生活支援施設職員、家庭問題相談員、保健師、福祉事務所職員、こども家庭センター（児童相談所）職員等 DV 被害者相談支援関係職員 35 人

2 目的

DV 被害者のこころのケアに関する対処法等について理解を深める。

3 期間

令和元年9月18日（水） 1日間

4 日程

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30～10:45	開講・オリエンテーション		
10:45～12:15	講義「トラウマ・PTSDの理解」	兵庫県こころのケアセンター：大塚美菜子主任研究員（公認心理師）	
12:15～13:45	〈休憩〉		
13:45～15:45	講義 「DVの理解と支援の視点 －被害者心理を踏まえて－」	新見公立大学講師/大阪府立大学客員研究員：増井香名子	
15:45～16:00	〈休憩〉		
16:00～17:00	講義「子ども・親子関係の影響の理解および親である被害者と子どもの支援」	新見公立大学講師/大阪府立大学客員研究員：増井香名子	
17:00～17:15	受講証交付・アンケート記入		

被害者や被災者の中長期の回復を支えるこころのケア－サイコロジカル・リカバリースキル（SPR）－

(第1期 専門・技術研修)

1 対象・定員

医師、臨床心理士、看護師、保健師、精神保健福祉士、その他関連領域の関係者 35 人

2 目的

「サイコロジカル・リカバリースキル（SPR）」はアメリカで開発された、被災者の回復を支えるための心理支援法である。被災者が苦痛をやりわらげ、被災後のストレスやさまざまな困難にうまく対処するためのスキルを身につけられるよう、構成されている。日本唯一の SPR 認定トレーナーが演習を交えながら適切な「こころのケア」のスキル習得を目指す。

3 期間

令和元年9月25日（水）、26日（木） 2日間

4 日程

(1) 1日目（9月25日）

時間	カリキュラム	講師	備考
10:00～10:15	開講・オリエンテーション		
10:15～12:15	講義「SPRの概要」 スキル1「情報を集め、支援の優先順位を決める」	兵庫県こころのケアセンター： 大澤智子研究主幹（公認心理師・SPR認定トレーナー）	
12:15～13:15	〈休憩〉		
13:15～14:45	スキル2「問題解決のスキルを高める」	大澤智子研究主幹	
14:45～14:55	〈休憩〉		
14:55～16:25	スキル3「ポジティブな活動をする」	大澤智子研究主幹	
16:25～16:55	施設見学		希望者のみ

(2) 2日目（9月26日）

時間	カリキュラム	講師	備考
9:50～10:00	事務連絡		
10:00～12:00	スキル4「心身の反応に対処する」	大澤智子研究主幹	
12:00～13:00	〈休憩〉		
13:00～14:30	スキル5「役に立つ考え方をする」	大澤智子研究主幹	
14:30～14:40	〈休憩〉		
14:40～16:10	スキル6「周囲の人とよい関係を作る」	大澤智子研究主幹	
16:10～16:20	受講証交付・アンケート記入		

犯罪被害とこころのケア

(第1期 専門・課題研修)

1 対象・定員

保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員 25人

2 目的

犯罪(事件・事故)被害の及ぼす心理的影響を理解し、被害者支援の観点に立った、犯罪被害者への対処法を習得する。

3 期間

令和元年10月17日(木)・18日(金) 2日間

4 日程

(1) 1日目(10月17日)

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30~10:45	開講・オリエンテーション		
10:45~12:15	講義「被害者・遺族の心理的影響」	兵庫県こころのケアセンター:田中英三郎主任研究員(医師)	
12:15~13:15	<休憩>		
13:15~14:30	講義「警察による被害者支援」	兵庫県警察本部被害者支援室:亀山史史室長	
14:30~14:45	<休憩>		
14:45~16:15	講義「民間支援のあり方」	ひょうご被害者支援センター: 支援コーディネーター 遠藤えりな氏	
16:15~16:45	施設見学		※希望者のみ

(2) 2日目(10月18日)

時間	カリキュラム	講師	備考
9:50~10:00	事務連絡		
10:00~12:30	講義「被害者・遺族の声を聞く」	*被害者・遺族の方が実体験を語られる。 (ファシリテーター) ひょうご被害者支援センター: 支援コーディネーター 遠藤えりな氏 田中英三郎主任研究員	
12:30~13:30	<休憩>		
13:30~16:30	グループ討議 ・どのような支援を行うか ・二次被害を防ぐための方法 (15:30~ 全体討議) ・支援に求められるもの	(ファシリテーター) ひょうご被害者支援センター: 支援コーディネーター 遠藤えりな氏 田中英三郎主任研究員	
16:30~16:45	受講証交付・アンケート記入		

子どもの領域におけるトラウマインフォームド・ケア ~トラウマを「見える化する」支援を学ぶ~ (第1期 基礎研修)

1 対象・定員

保健・医療・福祉・教育・司法・警察・消防関係等職員 80人

2 目的

こころのケア(子どものトラウマ)に関する全般的な基礎知識を習得し、理解を深める。

3 期間

令和元年7月24日(水) 1日間

4 日程

時間	カリキュラム	講師	備考
10:15~10:30	開講・オリエンテーション		
10:30~12:00	「トラウマインフォームドケアの基礎」	兵庫県こころのケアセンター: 亀岡智美副センター長兼研究部長(医師)	
12:00~13:30	<休憩>		
13:30~15:00	「児童福祉施設におけるトラウマインフォームドケア」	大阪大学大学院 野坂祐子准教授	
15:00~15:15	<休憩>		
15:15~16:45	「児童相談所におけるトラウマインフォームドケア」	大阪府吹田子ども家庭センター 島 ゆみ課長補佐	
16:45~17:00	受講証交付・アンケート記入		

消防職員のための惨事ストレスの理解と予防

(第2期 専門・課題研修)

1 対象・定員

消防職員 35人

2 目的

大規模災害時等、極めて悲惨な現場において活動したことにより生じる惨事ストレスに対する理解を深める。

3 期間

令和2年1月15日(水)・16日(木) 2日間

4 日程

(1) 1日目(1月15日)

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30~10:45	開講・オリエンテーション		
10:45~12:00	講義「惨事ストレスとは」	兵庫県こころのケアセンター:加藤寛センター長(医師)	
12:00~13:00	〈休憩〉		
13:00~14:30	事例検討「惨事ストレスへの対応」	神戸市垂水消防署 菌浦大作副署長 ※進行:加藤寛センター長	
14:30~14:45	〈休憩〉		
14:45~16:30	演習「惨事ストレス対応」 (グループ討議) ・予想される事態 ・職場での対応	加藤寛センター長 大澤智子研究主幹(公認心理師)	
16:30~17:00	施設見学		※希望者のみ

(2) 2日目(1月16日)

時間	カリキュラム	講師	備考
9:50~10:00	事務連絡		
10:00~12:00	講義「ストレスマネジメント」	兵庫県こころのケアセンター:大澤智子研究主幹	
12:00~13:00	〈休憩〉		
13:00~14:00	講義「コミュニケーションの基礎」	大澤智子研究主幹	
14:00~14:10	〈休憩〉		
14:10~16:00	演習「傾聴ロールプレイ」	加藤寛センター長 大澤智子研究主幹	
16:00~16:15	受講証交付・アンケート記入		

発達障害とトラウマ

(第2期 専門・課題研修)

1 対象・定員

子ども家庭センター(児童相談所)職員、福祉事務所職員等児童虐待関係職員、
保健所職員、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等 35人

2 目的

発達障害とトラウマへの理解を深める。

3 期間

令和2年1月30日(木) 1日間

4 日程

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30~10:45	開講・オリエンテーション		
10:45~12:15	講義「発達障害とトラウマをめぐる諸問題」	兵庫県こころのケアセンター:亀岡智美副センター長(医師)	
12:15~13:00	〈休憩〉		
13:00~13:30	施設紹介		※希望者のみ
13:30~15:00	講義「成人期の発達障害とトラウマ」	大久保クリニック:大久保 圭策 医院長	
15:00~15:15	〈休憩〉		
15:15~16:45	講義「学童期の発達障害とトラウマ」	大阪大学大学院:酒井佐枝子准教授	
16:45~17:00	受講証交付・アンケート記入		

子ども達のいじめのケアー加害と被害の連鎖ー

(第2期 専門・課題研修)

1 対象・定員

教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、こども家庭センター（児童相談所）職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員、児童福祉施設職員、司法関係職員 35人

2 目的

子ども達のいじめによるこころのケアに関する対処法等について理解を深める。

3 期間

令和2年2月13日（木）1日間

4 日程

時間	カリキュラム	講師	備考
10:15～10:30	開講・オリエンテーション		
10:30～12:00	講義「いじめの基本概念」	大阪大学大学院 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学 連合小児発達学研究所 和久田学特任講師	
12:00～13:00	〈休憩〉		
13:00～13:30	施設紹介		※希望者のみ
13:30～15:00	講義 「いじめや問題行動による被害ー加害の理解と支援」	大阪大学大学院:野坂祐子准教授	
15:00～15:15	〈休憩〉		
15:15～16:45	ワーク 「被害ー加害の連鎖をとめる心理教育とアクティビティ」	兵庫県こころのケアセンター:鈴木逸子主任研究員(公認心理師)	

対人支援職のためのセルフケア

(第2期 専門・課題研修)

1 対象・定員

保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者（保健師、ケースワーカー、各種相談員、福祉施設指導員等）、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等 35人

2 目的

対人支援業務によって生じる自らのストレスを理解し、その対処法を習得する。

3 期間

令和2年2月20日（木）・2月21日（金）2日間

4 日程

(1) 1日目（2月20日）

時間	カリキュラム	講師	備考
10:30～10:45	開講・オリエンテーション		
10:45～12:15	講義「ストレスとは」	兵庫県立大学大学院:富永良喜教授	
12:15～13:15	〈休憩〉		
13:15～16:30 (14:45～15:00)	講義「ストレスマネジメント」 〈休憩〉	兵庫県立大学大学院:富永良喜教授	
16:30～17:00	施設見学		※希望者のみ

(2) 2日目（2月21日）

時間	カリキュラム	講師	備考
9:50～10:00	事務連絡		
10:00～12:00	講義「二次受傷とは」	兵庫県こころのケアセンター:大澤智子研究主幹(公認心理師)	
12:00～13:00	〈休憩〉		
13:00～16:00	演習「キャリアの振り返り」 質疑応答・総括	(ファシリテーター) 大澤智子研究主幹	
16:00～16:15	受講証交付・アンケート記入		

消防職員のための惨事ストレスの理解と予防（ステップアップ）

（第2期 専門・課題研修）

1 対象・定員

消防職員 25人

2 目的

「消防職員のための惨事ストレスの理解と予防研修」を修了した消防職員に対して、大規模災害等、きわめて悲惨な現場において活動したことにより生じる惨事ストレスについて、より理解を深める。

3 期間

令和2年2月26日（水）・2月27日（木）2日間

4 日程

(1) 1日目（2月26日）

時間	カリキュラム	講師	備考
10:00～10:15	開講・オリエンテーション		
10:15～12:00	グループ討議「惨事ストレス(メンタルヘルス)対策を行う際の組織が抱える問題点」	兵庫県こころのケアセンター：大澤智子研究主幹(公認心理師)	
12:00～13:00	〈休憩〉		
13:00～14:30	講義「惨事ストレス対策の具体例ーピアサポート制度とサイコロジカルファーストエイド」		
14:30～14:40	〈休憩〉		
14:40～16:40	演習「サイコロジカルファーストエイド」		

(2) 2日目（2月27日）

時間	カリキュラム	講師	備考
9:50～10:00	事務連絡		
10:00～12:00	講義「職場のハラスメントの実態と対策」	兵庫県こころのケアセンター：大澤智子研究主幹	
12:00～13:00	〈休憩〉		
13:00～14:30	講義「メンタルヘルス対策計画時の留意点」	兵庫県こころのケアセンター：大澤智子研究主幹	
14:40～16:30	グループ討議「メンタルヘルス対策の立案」		
(15:40～16:30)	(各グループの発表・総括)		
16:30～16:40	受講証交付・アンケート記入		

【特別研修】

1 「子どものPTSDのアセスメント」

1回目	日 程	令和元年7月11日
	講 師	副センター長: 亀岡智美
	受講者数	91名(定員:80名)
2回目	日 程	令和元年9月12日
	講 師	副センター長: 亀岡智美
	受講者数	47名(定員:48名)

2 「TF-CBT Introductory Training」

1回目	日 程	令和元年7月12,13日
	講 師	副センター長: 亀岡智美、 大阪大学大学院人間科学研究科准教授: 野坂祐子、 被害者支援都民センター犯罪被害相談員: 新井陽子、 大阪府吹田子ども家庭センター課長補佐: 島ゆみ
	受講者数	77名(定員:50名)
2回目	日 程	令和元年9月13,14日
	講 師	副センター長: 亀岡智美、大阪府吹田子ども家庭センター課長補佐: 島ゆみ
	受講者数	50名(定員:48名)

3 「PTSD構造化面接-CAPSを理解する」

日 程	令和元年12月14日
講 師	センター長: 加藤寛
受講者数	27名(定員:30名)

4 「親子複合型認知行動療法 ～CPC-CBTイントロダクトリー」

日 程	令和元年12月17,18日
講 師	児童臨床心理学者: Melissa K. Runyon 博士、 副センター長: 亀岡智美
受講者数	54名(定員:30名)

【こころのケア研修連絡調整会議】

(開催年月日) 令和2年3月13日(金)

(参集機関) 兵庫県広域防災センター兵庫県消防学校
兵庫県社会福祉協議会福祉人材研修センター
兵庫県立教育研修所心の教育総合センター
兵庫県精神保健福祉センター
兵庫県中央こども家庭センター
兵庫県こころのケアセンター

※上記のとおり予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止した。

3 相談室の運営

相談室は、地域の医療・保健・福祉・教育・司法等の関係機関や一般の方を対象に、トラウマ・PTSD等「こころのケア」に関する専門相談の窓口として、平成16年4月から業務を開始した。

「こころのケア」に関する電話相談及びトラウマ・PTSD等で医療が必要な方への面接相談を中心に地域との連携窓口としての役割も担っている。

また、当センター診療所における受診者への医療、保健、福祉サービス等の情報提供や諸制度の手続き、関係機関への連絡調整、更に、当センターでの治療に伴う心理療法が必要な方へは公認心理師によるカウンセリングを実施している。

(1) 専門相談の体制

(相談日) 火曜日～土曜日(祝日、年末年始除く)

※ただし、月曜日がハッピーマンデー(成人の日、海の日、敬老の日及び体育の日)
又は振替休日(祝日が日曜日にあたるその翌日)の場合、その前の週の土曜日は休館。

(相談時間) 9:00～12:00 13:00～17:00

(相談方法) 電話又は面接、FAX、訪問など

(担当) 保健師、精神保健福祉士、公認心理師



相談室風景

(2) 相談受理状況

(延べ件数)			(延べ件数)			
初回相談	再相談	計(%)	相談方法			計(%)
			来所	電話	その他	
461 (28.1)	1,179 (71.9)	1,640 (100.0)	347 (21.2)	1,268 (77.3)	25 (1.5)	1,640 (100.0)

・相談方法としては電話が最も多く7割以上を占めている。その他は、信書、FAX、E-mail等である。

①性別・年齢別相談者数

(性別) (延べ人数)

男性	女性	計(%)
444 (27.1)	1,196 (72.9)	1,640 (100.0)

・相談の内、約7割は女性である。

(年齢別) (延べ人数)

区分	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上	不明	計(%)
相談者	5 (0.3)	49 (2.9)	85 (5.2)	193 (11.8)	174 (10.6)	413 (25.2)	26 (1.6)	695 (42.4)	1,640 (100)
IP (※)	80 (4.9)	289 (17.6)	145 (8.8)	296 (18.1)	204 (12.4)	433 (26.4)	39 (2.4)	154 (9.4)	1,640 (100)

・相談者及びIPの年齢別では、いずれも50代が最も多く、次に30代の相談が多い。

・IPの22.5%が20歳未満である。

※「IP」とは、Identified patient の略で「問題となっている人」である。

②月別受理件数

(延べ件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
139 (8.5)	110 (6.7)	103 (6.3)	129 (7.9)	107 (6.5)	107 (6.5)	143 (8.7)	157 (9.6)	152 (9.3)	150 (9.1)	166 (10.1)	177 (10.8)	1,640 (100.0)

・月別相談件数は、表のとおりである。

③地域別相談件数

(ブロック別)

(延べ件数)

北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	その他	不明	計 (%)
0 (0)	23 (1.4)	24 (1.5)	1,560 (95.1)	9 (0.5)	2 (0.1)	0 (0)	22 (1.4)	1,640 (100.0)

・ブロック別では全国各地から相談があった。全体の約9割は近畿地区からの相談である。

(近畿地区府県別)

(延べ件数)

兵庫	大阪	京都	滋賀	奈良	和歌山	計 (%)
1,404 (90.0)	109 (7.0)	16 (1.0)	8 (0.5)	15 (1.0)	8 (0.5)	1,560 (100.0)

④相談経路別相談件数

(延べ件数)

医療機関	HP等	相談機関(※)	教育機関	行政窓口	司法関係	マスコミ	その他	不明	再相談	計 (%)
136 (8.3)	80 (4.9)	61 (3.7)	52 (3.2)	25 (1.5)	20 (1.2)	2 (0.1)	34 (2.1)	51 (3.1)	1,179 (71.9)	1,640 (100.0)

・相談室への経路は、「医療機関」が最も多く、次いで「HP等」である。

・その他は、「研修受講」、「施設」、「通りがかり」等である。

※相談機関とは、こども家庭センター、保健所、市町相談窓口等である。

⑤相談内容別件数

(延べ件数)

トラウマ・PTSD	一般精神	こころの健康	その他	計 (%)
1,344 (82.0)	157 (9.6)	133 (8.1)	6 (0.3)	1,640 (100.0)

・トラウマやPTSDについての相談が、全体の8割を超える。

⑥トラウマ・PTSDの内訳

(延べ件数)

交通事故被害	犯罪被害	事故被害	暴力被害	事故目撃	性被害	死別	DV	虐待	災害	パワハラ	いじめ	その他	計 (%)
92 (6.9)	15 (1.1)	26 (1.9)	109 (8.1)	11 (0.8)	231 (17.2)	89 (6.6)	262 (19.5)	332 (24.7)	38 (2.8)	62 (4.6)	53 (4.0)	24 (1.8)	1,344 (100.0)

・トラウマ・PTSDの内訳は、「虐待」「DV」「性被害」の順が多い。

⑦相談結果（処遇）

（延べ件数）

当診療所紹介	他機関紹介	制度等紹介	傾聴・助言	関係機関連絡	その他	計（％）
446 (27.2)	61 (3.7)	22 (1.4)	765 (46.6)	344 (21.0)	2 (0.1)	1,640 (100.0)

・他機関紹介は他の医療機関、精神保健福祉センター、保健所、福祉事務所等への紹介である。

(3) カウンセリングの状況

カウンセリングは診療所を受診し、PTSD症状等のトラウマに起因する心理的影響を認め、治療の対象と判断された患者のうち、心理治療が適当であると判断されたケースについて行っている。

①性別・年齢別実施人数

（性別）

（延べ人数）

男性	女性	計（％）
124 (15.2)	692 (84.8)	816 (100.0)

・全体の約9割が女性である。

（年齢別）

（延べ人数）

9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上	計（％）
0 (0)	6 (0.7)	145 (17.8)	234 (28.7)	200 (24.5)	213 (26.1)	18 (2.2)	816 (100.0)

・カウンセリングを受けた年齢では30代～50代が多い。

②内容別件数

（延べ件数）

事故	DV	性被害	犯罪被害	親子関係	虐待	死別	その他	計（％）
71 (8.7)	120 (14.7)	170 (20.8)	20 (2.5)	116 (14.2)	125 (15.3)	123 (15.1)	71 (8.7)	816 (100.0)

・カウンセリング対象者の内訳は、「性被害」「虐待」「死別」の順に多い。
・その他は、「いじめ」「パワーハラスメント」等である。

③セッション別件数

（延べ件数）

心理療法	心理テスト	その他	計（％）
768 (94.1)	11 (1.4)	37 (4.5)	816 (100.0)

・セッションの9割以上は心理療法である。
・その他はJR福知山線脱線事故の調査面接や家族との面接である。

(4) 自殺対策への取り組み

自殺問題の深刻化に伴い、当センターにおいては「自死遺族ケア」という観点から、兵庫県いのち対策室、兵庫県精神保健福祉センターと連携を図りながら相談機能の充実に努めている。

また、自殺の再企図防止への取り組みとして、兵庫県災害医療センターと連携して医療的支援を行っている。

4 診療所の運営

診療所は、PTSD症状などのトラウマに起因する心理的影響に関する治療を行っており、受診については原則として関係機関からの紹介制にしている。

また、公立学校共済組合から受託するストレスドック事業等を行う。

(1) 診療所の体制

(診療日) 火曜日～土曜日(祝日、年末年始除く)

※ただし、月曜日がハッピーマンデー(成人の日、海の日、敬老の日及び体育の日)
又は振替休日(祝日が日曜日にあたるときのその翌日)の場合、その前の週の土曜日は休診。

(診療受付時間) 9:00～12:00 14:00～16:00

(担当) 精神科医

(2) 月別診療件数

(延べ件数)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
267 (7)	254 (5)	266 (6)	267 (4)	271 (6)	265 (4)	296 (5)	297 (5)	289 (4)	263 (5)	245 (4)	286 (3)	3,266 (58)

・診療は、災害・事件・事故等のトラウマやPTSD等に関する治療となるため、1件当たりの診療時間は1時間以上を要することがある。()内はJR福知山線脱線事故関連の再掲である。

(3) 専門治療件数

(延べ件数)

長時間暴露療法 (PE療法)	トラウマ・ フォーカス ト認知行動 療法 (TF-CBT)	眼球運動による脱 感作と再処理法 (EMDR)	複雑性悲嘆の 認知行動療法	CPT認知処 理療法	ナラティブ・ エクスポ ージャー・セラピー (NET)	認知行動療 法その他	計
38 (5)	89 (10)	35 (7)	62 (5)	32 (5)	189 (6)	12 (2)	457 (40)

・()内は実人員である。

(4) 初診者の状況

① 性別・年齢別初診者数

(性別) (人)

男性	女性	計 (%)
18 (25.0)	54 (75.0)	72 (100.0)

・受診者の約7割が女性である。



診察室風景

(年齢別) (人)

9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60歳以上	計 (%)
7 (9.7)	20 (27.8)	9 (12.5)	11 (15.3)	12 (16.7)	9 (12.5)	4 (5.5)	72 (100.0)

・年齢別では、10代が最も多く、次いで40代、30代である。
・初診患者の約4割は20歳未満である。

② 地域別初診者数

(ブロック別)

(人)

北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	計 (%)
0 (0)	0 (0)	1 (1.4)	71 (98.6)	0 (0)	0 (0)	72 (100.0)

・ブロック別ではほとんどが近畿地区からの受診である。

(近畿地区府県別)

(人)

兵庫	大阪	京都	滋賀	奈良	和歌山	計 (%)
60 (84.5)	9 (12.7)	1 (1.4)	1 (1.4)	0 (0)	0 (0)	71 (100.0)

・府県別では兵庫県内からの受診が最も多い。

③ 受診経路 (紹介元) 別初診者数

(人)

医療機関	相談機関(*)	教育機関	司法関係	その他	紹介なし	計 (%)
45 (62.5)	13 (18.1)	5 (6.8)	2 (2.8)	3 (4.2)	4 (5.6)	72 (100.0)

・その他は、家族が診療所に受診していて紹介があったケースや施設等からの紹介である。

※相談機関とは、こども家庭センター、保健所、市町相談窓口等である。

④ 診療内訳

(人)

犯罪被害	交通事故被害	暴力被害	性被害	事故目撃	死別	自死遺族	災害	DV	虐待	パワハラ	いじめ	その他	計 (%)
2 (2.8)	6 (8.3)	2 (2.8)	8 (11.1)	1 (1.4)	4 (5.6)	2 (2.8)	1 (1.4)	4 (5.6)	19 (26.4)	5 (6.9)	6 (8.3)	12 (16.6)	72 (100.0)

・初診内訳は、「虐待」「性被害」が多い。

・その他は、「暴言」や「事故」などである。

⑤ 受診結果

(人)

診療継続	医療機関紹介等	セカンド・オピニオン	終了	中断	計 (%)
46 (63.9)	8 (11.1)	5 (6.9)	13 (18.1)	0 (0)	72 (100.0)

(5) ストレスドック・ストレスチェック

(人)

ストレスドック	ストレスチェック	計
70	2	72

5 地域支援活動の実施

災害、事件や事故等の発生により「こころのケア」が必要な場合に、関係機関と調整のうえ、個人及び組織に対する助言を行っている。

また、必要に応じて「こころのケアチーム」を編成して現地に派遣し、コンサルテーションや、研修講師等、地域支援活動を行っている。

今年度の主な活動状況は次のとおりである。

(1) 東日本大震災（平成23年3月～）

現地派遣

（主な支援先） 宮城県（仙台市、石巻市、気仙沼市、南三陸町）、福島県、支援団体等

（対応職種） 医師、公認心理師

（対象者） 保健医療福祉関係者

（支援回数） 延べ9回

（支援対象人数） 延べ543人

（支援内容） 現地でのコンサルテーション、研修講師等

(2) 熊本地震（平成28年4月～）

現地派遣

（主な支援先） 熊本県、熊本市

（対応職種） 医師、公認心理師

（対象者） 保健医療福祉関係者

（支援回数） 延べ3回

（支援対象人数） 延べ220人

（支援内容） 現地でのコンサルテーション、研修講師等

(3) 大阪北部地震及び西日本豪雨、台風21号被害（平成30年7月～）

現地派遣

（主な支援先） 広島県、岡山県、大阪市

（対応職種） 医師、公認心理師

（対象者） 保健医療福祉関係者

（支援回数） 延べ6回

（支援対象人数） 延べ430人

（支援内容） 現地でのコンサルテーション、研修講師等

(4) 自殺関連における危機対応

（主な支援先） 教育機関、行政機関、県内の病院

（対応職種） 公認心理師、精神保健福祉士、保健師

（対象者） 教育委員会、行政職員、看護職

（支援回数） 延べ7回

（支援対象人数） 延べ20人

（支援内容） コンサルテーション

(5) 事件・事故における危機対応

- (主な支援先) 消防、他府県精神保健福祉センター、保育園、バス会社等
- (対応職種) 医師、公認心理師、精神保健福祉士、保健師
- (対象者) 消防職員、行政職員、弁護士、関係会社職員等
- (支援回数) 延べ13回(内、現地派遣 2回)
- (支援対象人数) 延べ328人(内、現地派遣120人)
- (支援内容) 現地でのコンサルテーション、研修講師等

(6) その他のメンタルヘルスケア(コンサルテーション)

- (主な支援先) 県内の病院、アジア地域の医療・防災関係機関、
都道府県、市町、消防、教育機関、児童相談所、警察、福祉施設 等
- (対応職種) 医師、公認心理師、精神保健福祉士、保健師
- (対象者) 消防職員、行政職員、警察職員等
- (支援回数) 延べ40回
- (支援対象人数) 延べ893人
- (支援内容) 関係機関へのコンサルテーション、実習生への指導、施設見学等

6 兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」体制整備事業

県内外における自然災害や犯罪事件・航空機・列車事故等集団災害が発生した場合、被災地域における精神保健医療機能が一時的に低下し、災害ストレス等により新たな精神的問題が生じる等、精神保健医療の需要が拡大することが考えられる。

そこで、被災地域のニーズに応えるかたちで、専門性の高い精神科医療の提供と地域精神保健活動の支援を行うため、災害派遣精神医療チームを平時から設置する必要があることから、兵庫県と連携して災害発生時の支援体制の確立を図っている。

※ひょうごDPATは、平成26年12月19日に発足し、こころのケアセンターは、「ひょうごDPAT」の統括として、兵庫県のち対策室、兵庫県精神保健福祉センターとともに調整本部の役割を担う。

(1) ひょうごDPAT運営委員会への参加

兵庫県のち対策室・神戸市保健所調整課・兵庫県精神保健福祉センター・兵庫県こころのケアセンター・兵庫県立ひょうごこころの医療センター・兵庫県精神科病院協会の6機関で構成

第1回運営委員会 令和元年6月26日（水）

「ひょうごDPAT」事業にかかる報告及び協議事項

「ひょうごDPAT」研修実施計画について

第2回運営委員会 令和2年3月26日（木）

今年度の取組み実績と次年度計画について

(2) 関西圏域DPAT連携体制の推進について

災害時は近隣府県からの協力関係が不可欠であり、平時より災害時のネットワークの強化や協力体制を構築することが必要である。そのため、平成30年度から関西の各府県の精神保健福祉センターが参集し、災害時のネットワークの強化や協力体制を構築している。

① 関西圏域DPAT研修の見学及び情報収集

- ・大阪府DPAT養成研修見学参加（7/27,28）
- ・ひょうごDPAT研修会に他府県から参加
（11/16：大阪府にファシリテータとして依頼）
（12/7：大阪府、京都府、京都市から見学参加）

② 令和元年度近畿ブロック精神保健福祉センター災害時対応連絡会議へ出席（9/6）

（講義及び助言）

「災害、大規模事件事故等における心のケアと関西圏域における協力等について」

兵庫県こころのケアセンター 加藤センター長

（意見交換）

- ・A事件における府県及び市の対応
- ・B保育園事故におけるこころのケアチームの対応

(3) 兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」活動マニュアルの改訂

熊本地震をふまえて平成30年3月20日に厚生労働省より「災害時健康危機管理支援チーム活動要領」が発出され、平成30年3月30日に「災害派遣精神医療チーム（DPAT）活動要領」が一部改正された。これに基づき、兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」活動マニュアルを改訂し、ホームページ上にアップする予定である。

(4) 兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」活動

兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」が令和2年2月11日から14日までの4日間、新型コロナウイルス感染症対策として、ダイヤモンドプリンセス号の船内にて宿泊待機を余儀なくされた者の精神医療ニーズに対応するため、心のケアを実施した。

(5) 兵庫県こころのケアチーム「ひょうごDPAT」研修会の開催

①基礎研修

日 程 令和元年8月31日（土）10:00～16:30

参加者数 26か所（53人）（ひょうごDPAT登録チーム構成員、健康福祉事務所、保健所、市町等）

内 訳 医療機関：12（20人）、健康福祉事務所等：9（16人）、その他：5（17人）

時 間	内 容	講 師
10:00～10:03	あいさつ オリエンテーション	兵庫県いのち対策室 野倉加奈美室長 兵庫県こころのケアセンター 村上修子 相談室長
10:03～10:30	災害時の精神保健活動 ーDPAT設立からの役割を中心にー	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛センター長
10:30～10:50	兵庫県の災害時体制について 兵庫県防災計画、地域災害救急医療体制、 災害派遣精神医療チーム（DPAT）の体制	兵庫県いのち対策室 野倉加奈美室長
10:50～11:15	DPAT活動とは 災害医療概論とDPATの活動	兵庫県こころのケアセンター 田中英三郎主任研究員
11:15～11:45	DPAT活動の実際 発災直後～本部立上げ、 派遣（準備～引継ぎ）	兵庫県こころのケアセンター 福井貴子 特別研究員
11:45～12:45	昼 食 ・ 休 憩	
12:45～13:15	災害時の情報共有 （情報収集・処理・伝達）	兵庫県災害医療センター 中田正明 放射線係長
13:15～13:45	関係機関の活動と連携	
13:45～14:15	(1) DMATにおける活動と連携	上益城郡御舟町 上村裕美子保健師
14:15～15:35	(2) 保健師の活動と連携	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛センター長
14:15～15:35	グループワーク 災害派遣時の活動想定	
15:35～16:10	グループ発表	
16:10～16:30	意見交換、質疑応答	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛センター長 上益城郡御舟町 上村裕美子保健師



基礎研修

②実務者研修

日 程 令和元年9月21日（土）10:00～16:30

参加者数 14か所（36人）（ひょうごDPAT登録チーム構成員、健康福祉事務所、保健所等）

（※）受講条件として、基礎研修を受講済みの者

内 訳 医療機関：6（13人）、健康福祉事務所等：3（7人）、その他：5（16人）

時間	内 容	講 師
10:00～10:05	オリエンテーション	兵庫県こころのケアセンター 村上修子 相談室長
10:05～10:15	あいさつ、基礎研修の振り返り	兵庫県こころのケアセンター 田中英三郎主任研究員
10:15～10:35	講義：ロジスティクスの役割について	兵庫県災害医療センター 中田 正明 放射線係長
10:35～12:00	講義：記録について クノロ、組織図、コンタクトリスト等 演習1 ロールプレイ	兵庫県災害医療センター 中田 正明 放射線係長 兵庫県こころのケアセンター 大澤、田中、福井、 桃田、村上、井潟 兵庫県精神保健福祉センター 松田、秋山 兵庫県こころの医療センター 赤木、三原
12:00～13:00	昼 食 ・ 休 憩	
13:00～13:30	講義 情報収集、連絡について EMIS、J-SPEED	兵庫県災害医療センター 中田 正明 放射線係長 兵庫県こころのケアセンター 村上修子 相談室長
13:30～13:35	移 動	
13:35～14:45	A班：パソコン操作 EMIS操作について	演習2（A・Bの2班に分かれて80分ずつ交替で演習） 兵庫県災害医療センター 中田 正明 放射線係長 神戸赤十字病院 宮安孝行診療放射線技師 兵庫県いのち対策室 長岡 兵庫県こころのケアセンター 井潟 兵庫県精神保健福祉センター 松田、秋山 兵庫県こころの医療センター 三原
14:45～14:55	移 動	
14:55～16:05	B班：音声機器（講義20分、実習50分） 衛星携帯電話の操作について トランシーバーの操作について	神戸赤十字病院 安部史生検体検査係長 神戸赤十字病院 揚野達也（事務） 兵庫県こころのケアセンター 大澤、福井、桃田、村上 兵庫県こころの医療センター 赤木
16:05～16:10	休 憩 ・ 移 動	
16:10～16:30	意見交換・質疑応答	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛センター長



実務者研修

③ステップアップ研修

日 程 令和元年11月16日（土）10:00～16:30

参加者数 17か所（48人）（ひょうごDPAT登録チーム構成員、健康福祉事務所、保健所等）

（※）受講条件として、基礎研修を受講済みの者

内 訳 医療機関：9（20人）、健康福祉事務所等：2（5人）、その他：5（21人）、県外：1（2人）

時間	内 容	講 師
10:00～10:05	オリエンテーション	兵庫県こころのケアセンター 村上修子 相談室長
10:05～10:10	あいさつ	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛 センター長
10:10～10:30	講義：DPATの役割と留意点	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛 センター長
10:30～12:00	講義：災害現場における指揮命令系統と連携・受援体制	DPAT事務局インストラクター 緑川 大介 医師
12:00～13:00	昼 食 ・ 休 憩	
13:00～16:00	演習 活動拠点本部設置・運営 地域でのDPAT活動<3事例> 全体シェアリング	兵庫県こころのケアセンター 加藤、田中、大澤、福井 桃田、村上、井潟 いのち対策室 長岡 兵庫県災害医療センター 中田 神戸赤十字病院 宮安、安部、安藤 兵庫県精神保健福祉センター 宮脇、定兼 ひょうごこころの医療センター 加藤、有澤
16:00～16:20	講義：支援者支援について	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛 センター長
16:20～16:30	意見交換・質疑応答	兵庫県こころのケアセンター 加藤 寛 センター長 DPAT事務局インストラクター 緑川 大介 医師



ステップアップ研修

④サイコロジカル・ファースト・エイド（PFA）研修

日 程 令和元年12月7日（土）10:30～16:30

参加者数 17か所（28人）（ひょうごDPAT登録チーム構成員、健康福祉事務所、保健所等）

内 訳 医療機関：5（10人）、健康福祉事務所等：5（9人）、その他：4（6人）、県外：3（3人）

時 間	内 容	講 師
10：00～10：05	オリエンテーション	兵庫県こころのケアセンター 村上修子 相談室長
10：30～12：00	PFAとは 早期介入時の原理原則 PFAの提供者 災害派遣前に考慮すべき事項 PFAの活動【演習】 活動1：被災者に近づき、活動を始める 活動2：安全と安心感	兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 大澤 智子
12：00～13：00	昼 食 ・ 休 憩	
13：00～16：30	PFAの活動【演習】 活動3：安定化 活動4：情報を集める 活動5：現実的な問題解決を助ける 活動6：周囲の人々との関わりを促進する 活動7：対処に役立つ情報 活動8：紹介と引継ぎ 意見交換・質疑応答	兵庫県こころのケアセンター 研究主幹 大澤 智子
16：30～16：40	閉会・受講証発行	



サイコロジカル・ファースト・エイド（PFA）研修

7 「こころのケア国際シンポジウム」の開催

阪神・淡路大震災25年、兵庫県こころのケアセンター開設15周年を記念して、国内外から専門家を招聘し、講演およびパネルディスカッションを内容とした「こころのケア国際シンポジウム」を神戸ポートピアホテルで開催した。

(主催) こころのケア国際シンポジウム実行委員会

(兵庫県、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構)

(テーマ) 災害とレジリエンス

(後援) 復興庁、JICA関西、朝日新聞神戸総局、読売新聞社、神戸新聞社、サンテレビジョン、NHK神戸放送局、日本トラウマティック・ストレス学会

(日時) 令和元年11月7日(木) 13:00～18:00

(参加者) 240名

(内容)

- ・兵庫県こころのケアセンター 15年の活動 加藤センター長
- ・基調講演1「東日本大震災後の子どものこころのケア～8年間の診療と研究から見えること～」
岩手医科大学神経精神科学講座講師、いわてこどもケアセンター副センター長／八木淳子
- ・基調講演2「アメリカの災害後の心理社会支援：教訓、最近の動向、及び災害救援者への支援」
アメリカ国立PTSDセンター教育専門官／パトリシア・ワトソン
- ・パネラー報告1「インドネシアでの被災者の心のケアについて：心理支援—災害精神保健」
インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学精神保健看護学部
講師／エニ・ヌライニ・アグスティニ
- ・パネラー報告2「福島原発事故が与えたメンタルヘルスへの影響：どのように乗り越えるべきか？」
福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座教授／前田正治
- ・パネルディスカッション

8 情報の発信

「兵庫県こころのケアセンター」とは、どのような機能を持ち、どのような活動を行っているのか等について広く知っていただくため、ホームページの運営やパネル展示など様々な取り組みを行った。

(1) ホームページの運営

本センターの活動紹介をはじめ、研修等の開催案内や研究成果（概略版）等を掲載したホームページを運営した。

アクセス件数は月平均19,202件で、昨年度より11.1%減となった。

<http://www.j-hits.org>

(2) パネル展示

本センターの機能等を紹介したパネルをエントランスホールにて常設展示している。

また、「兵庫県こころのケアセンターからのお知らせ」コーナーでは、相談室・診療所の利用案内等を掲示するとともに、熊本地震に関する「ひょうごDPAT」活動等のパネルを設置し、情報提供に努めた。

(3) 施設見学の受け入れ

見学希望については、可能な限り受け入れるとともに、「こころのケア」研修開催時にも受講者を対象に施設見学を実施した。

(回数) 22回 (人数) 255人

9 ひょうごヒューマンケアカレッジ事業の実施

阪神・淡路大震災の経験と教訓から培った、いのちの尊厳と生きる喜びを高める総合的アプローチである「ヒューマンケアの理念」に基づいた保健・医療・福祉分野における新たな専門的人材養成の講座や、この理念に関する多様なニーズに対応した知識や技術の普及啓発と実践を担う県民向けの各種講座を開設し、兵庫県との共催による「ひょうごヒューマンケアカレッジ事業」を実施した。

1 専門的人材養成講座

(1) 音楽療法講座

音楽療法の実践をめざす者に対し、音楽療法に関する知識や技術のほか、実践者としての資質等を身に付ける機会を提供することにより、保健・医療・福祉・教育等の様々な分野において地域で活動する県独自の音楽療法士の養成を図った。

①基礎講座

音楽療法の概要、音楽が心身に及ぼす効果、実践者としての役割や資質など、音楽療法の専門的な学習に向けた基礎知識を提供した。

②専門講座

音楽療法実践論、関連領域及び音楽療法実技の3分野で構成し、音楽療法の実践に必要な専門知識・技術を学習するとともに、実践者としての豊かな人間性や倫理観を養った。

また、専門講座修了者に対して、その実践経験活動のための指導、助言等を行った。

(2) 音楽療法士の認定審査

県独自の技能認定である「兵庫県音楽療法士」の認定審査を行った。また、新規認定後、4～5年目の者を対象に、更新認定審査を行った。

(3) 音楽療法講演会・実践活動発表会

保健・医療・福祉・教育施設等への音楽療法の普及を図るため、認定証交付式に併せて、記念講演会と実践活動発表会を実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。

(4) 兵庫県音楽療法士現任研修

「兵庫県音楽療法士」の資質向上を図るため、専門講座の聴講を実施した。

2 ヒューマンケア実践普及講座

(1) 終末期の暮らしを考える講座

人間としての尊厳を保ちつつ、自らの望む人生を全うできるよう、在宅におけるターミナルケアに必要な知識を含め、人生の最終段階を迎える前に役立つ様々な知識・技術を体系的に学ぶ機会を提供した。

(2) グリーフケア講座

事件や事故、病気などで大切な人を失い、深い悲しみのため悲嘆（グリーフ）状態に陥った人に対応するため、グリーフに関する理解、知識等を学ぶ機会を提供した。

(3) アートとこころのケア講座

現代社会における癒しや自己表現、セラピーなどにおけるアート（芸術）の役割を考えるとともに、近年注目されているホスピタルアート等についてその内容や手法を学ぶ機会を提供した。

3 事業実績

(1) 講座関係

区分	講座名	実施期間(回数)	受講者数
専門的人材 養成講座	基礎講座	R2. 1.22 ~ R2. 2.26 (5回)	57名
	専門講座<実践論分野>	R元. 6. 5 ~ R元. 9. 5 (17回)	26名
	専門講座<関連領域分野>	R元. 6. 4 ~ R元. 9.12(16回)	21名
	専門講座<実技分野>	R元.10. 2 ~ R2. 3. 3 (19回)	17名
ヒューマンケア 実践普及講座	終末期の暮らしを考える講座	R元. 7. 5 ~ R元. 9.28 (7回)	80名
	グリーンケア講座	R元.10. 9 ~ R元.12.13(7回)	70名
	アートとこころのケア講座	R 2. 2. 1 ~ R 2. 2.29 (4回)	49名

(2) 音楽療法士の認定審査

①新規認定の審査

音楽療法講座専門講座修了者のうち、一定の実践経験を積んだ者を対象に、県独自の技能認定である「兵庫県音楽療法士」の認定審査を行った。

- (a) 面接・実技審査日 令和元年12月21日(土)
- (b) 認定審査会開催日 同上
- (c) 認定申請者数 24名
- (d) 認定者数 21名

②更新認定の審査

「兵庫県音楽療法士」の新規認定後4~5年目の者のうち、更新要件(新規認定後3年間以上の実践経験等)を満たす者を対象に、更新認定審査を行った。

- (a) 更新申請者数 8名
- (b) 更新認定者数 8名

(3) 音楽療法講演会・実践活動発表会

保健・医療・福祉・教育施設等への音楽療法の普及を図るため、県主催の音楽療法士認定証交付式に併せ、記念講演会と音楽療法士による実践活動発表会を下記のとおり予定していたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となる。

①日 時 令和2年3月5日(木) 13:30 ~ 16:30 (うち交付式 13:30 ~ 14:00)

②場 所 兵庫県こころのケアセンター 大研修室

③内 容 <記念講演会>

演題:「精神医学と音楽療法 ~音楽が身体と心にもたらすもの~」

講師:馬場 存氏(精神科医・音楽療法士、作曲家・ピアニスト)

<実践活動発表会>

令和元年度新規認定音楽療法士実践活動発表(2例)

- ・「全盲児童が色々な体の動きを獲得するための音楽療法」
- ・「寝たきり高齢男性の意欲向上に関わった音楽療法の事例」

④参加者 保健・医療・福祉・教育施設関係者、兵庫県音楽療法士、音楽療法に関心を持つ者、一般県民

(4) 兵庫県音楽療法士現任研修

①専門講座の聴講（参加者：延べ 10 名）

②未更新者を対象とした更新説明会の開催

日 時：令和 2 年 3 月 25 日（水）

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

(5) 音楽療法ミニセッション&コンサートの開催

音楽療法普及のため、一般県民に向けたエントランス・ホールでのミニセッション&コンサートを、HAT 神戸で行われる「ひょうご安全の日」のイベントにあわせて開催した。

出 演：ミュージックセラピー神戸 お陽さま、大阪音楽大学学生

日 時：令和 2 年 1 月 17 日（金）14:00～15:30

参加者：約 60 名



エントランスでのセッションの様子

【参考】

音楽療法について

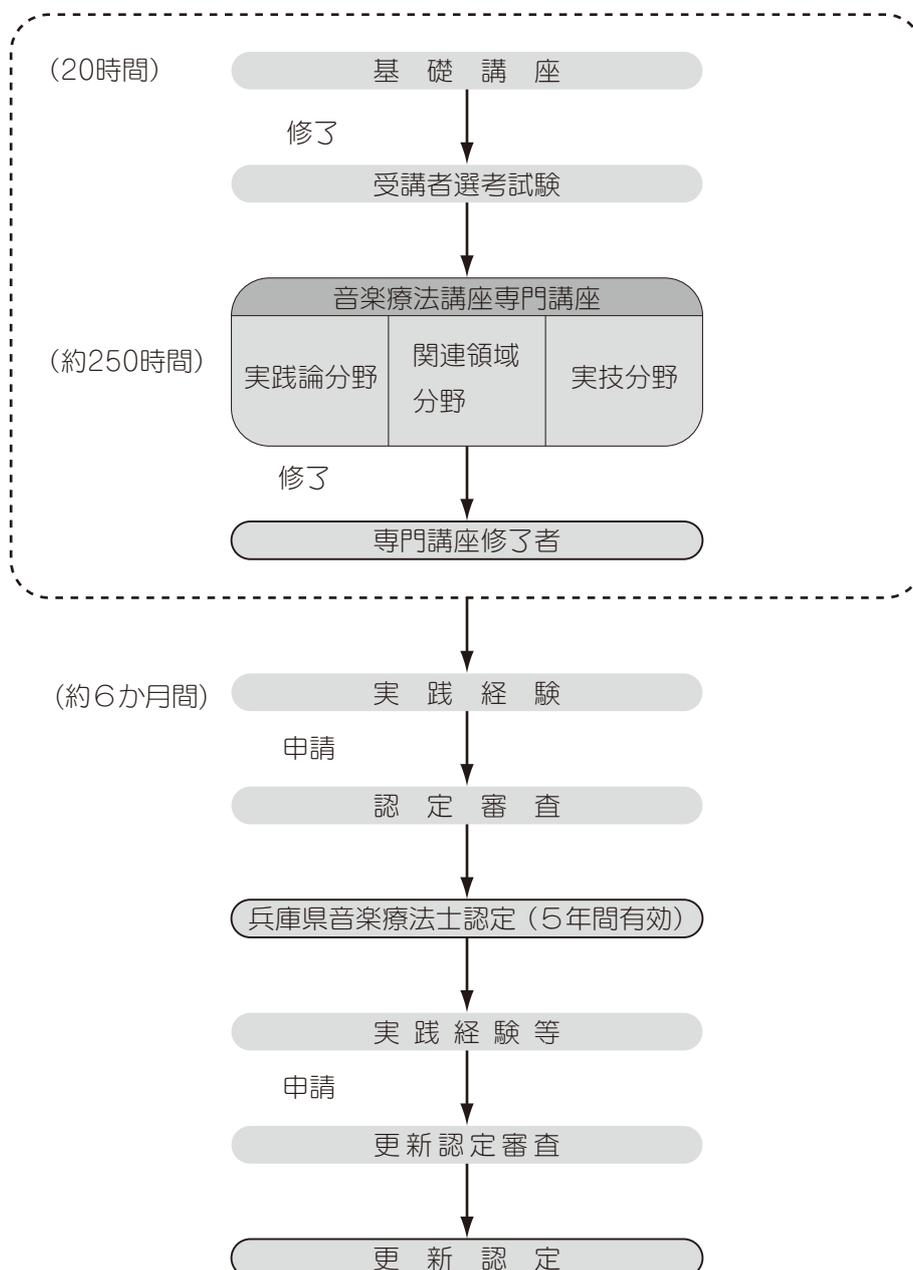
1 音楽療法の定義等

音楽療法とは、音楽の持つ、生理的、心理的、社会的働きを、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、問題となる行動の変容に向けて、治療者が意図的、計画的に活用して行う行為である。

わが国においては、1960年代後半から導入され、①精神障害への心理療法やリハビリテーション、②神経症や心身症などに対する心理療法的音楽療法、③障害児に対する発達療法的音楽療法、④認知症等の高齢者に対する音楽療法、⑤ターミナルケアにおける音楽療法などが行われている。

2 「兵庫県音楽療法士」認定・更新の流れ

ひょうごヒューマンケアカレッジ
専門的人材養成講座「音楽療法講座」



令和元年度 ひょうごヒューマンケアカレッジ「ヒューマンケア実践普及講座」

●終末期の暮らしを考える講座（全7回・21時間）

月	日	曜日	時間	講座内容	講師（所属・氏名）
7	5	金	13:30~16:30	死にゆく(ターミナル期の)人の特徴とケア 「身体的・心理的・社会的・霊的な痛み」	畿央大学健康科学部 教授 河野 由美
7	25	木	13:30~16:30	在宅ターミナルケアと 疼痛のコントロール	関本クリニック理事長 関本 雅子
8	2	金	13:30~16:30	「最後まで自分らしく」 ～認知症の家族と共に～	認知症のひとと家族の会 兵庫県支部 飯村 貞美
8	23	金	13:30~16:30	在宅ターミナルケアと介護 「苦痛を軽減する姿勢と介助方法」	社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 総合リハビリテーションセンター 理学療法士 安尾 仁志 作業療法士 安藤 悠
9	6	金	13:30~16:30	人生の店じまい 終活セミナー ～エンディングノートをとおして 自分自身と向き合ってみませんか～	なかい行政書士事務所 行政書士 中井 さとみ
9	13	金	13:30~16:30	スピリチュアルペインの理解と スピリチュアルケアの実践へのヒント (認知症のひととがん患者を例に)	カトリック大阪大司教区 司祭 上智大学大阪サテライトキャンパス長 ガラシア病院チャプレン 松本 信愛
9	28	土	13:30~16:30	患者の権利と人生の最終段階における 意思決定	兵庫医療大学 教授 紀平 知樹

●グリーフケア講座（全7回・21時間）

月	日	曜日	時間	講座内容	講師（所属・氏名）
10	9	水	13:30~16:30	死別と悲嘆（グリーフ）を理解するために (導入講義)	兵庫県こころのケアセンター センター長 加藤 寛
10	16	水	13:30~16:30	宗教における死生観	浄土宗願生寺 住職 大河内 大博
10	30	水	13:30~16:30	悲嘆について	関西学院大学人間福祉学部人間科学科 教授 坂口 幸弘
11	6	水	13:30~16:30	心療内科医としての遺族支援	神戸赤十字病院 心療内科部長 村上 典子
11	13	水	13:30~16:30	自殺と遺族ケア	兵庫県こころのケアセンター 主任研究員 田中 英三郎
11	20	水	13:30~16:30	聴くということ ～悲しみに寄り添う支援～	福島県立医科大学医学部災害こころの医 学講座 准教授 瀬藤 乃理子
12	13	金	13:30~16:30	人生の中の悲しみを生き抜く力	上智大学グリーフケア研究所特任所長 生と死を考える会全国協議会会長 高木 慶子

●アートとこころのケア講座（全4回・11時間）

月	日	曜日	時間	講座内容	講師（所属・氏名）
2	1	土	13:40~16:20	アート・セラピー（芸術療法）を活用した 地域での取り組み	甲南大学人間科学研究所客員研究員 臨床心理士 内藤 あかね
2	8	土	13:30~16:20	デジタル絵本をつくろう! ～病児や発達に困りごとのある子どもたちを サポート～	(株) グッド・グリーフ 朝倉 民枝
2	15	土	13:30~16:20	花とみどりでこころをいやす園芸療法	兵庫県立淡路景観園芸学校 兵庫県園芸療法士 金子 みどり
2	29	土	13:30~16:10	臨床美術（クリニカルアート）とは ～アートでこころのリフレッシュ～	(株) フェリシモ 木野内 美里（臨床美術士）

10 その他受託事業

(1) JICA 研修

① JICA課題別研修（「災害におけるこころのケア」コース）

日本の経験、知見をもとに災害マネジメントサイクルにおける精神保健医療（こころのケア）の役割を理解し、災害における精神保健政策の立案に必要な能力を強化する研修を実施した。

（開催年月日）令和元年8月15日（木）～30日（金）

（対象国）アフガニスタン、バングラデシュ、フィジー、ニカラグア、タイ

（対象者）各国中央省庁及び地方行政機関の医師等

（参加者数）6名

（実施場所）こころのケアセンター、人と防災未来センター、広島県立総合精神保健福祉センター ほか

② JICA国別研修（マレーシア「LEP2.0 被災者への心理的ケア」コース）

マレーシアにおける災害後の安定した精神保健サービスを開発するための人材を養成する研修を実施した。

（開催年月日）令和元年11月5日（火）～15日（金）

（対象国）マレーシア

（対象者）マレーシア保健省医師等

（参加者数）12名

（実施場所）こころのケアセンター、人と防災未来センター、益城町地域支え合いセンター ほか

(2) 消防職員等のメンタルヘルスケアの実施

神戸市等から委託を受け、メンタルヘルスに関する指導・相談を行うとともに、研修会を実施した。

①神戸市

実施期間：平成31年4月1日（月）～令和2年3月31日（火）

開催場所：神戸市防災学校

実施人数：9名（相談）、157名（研修4回）、1,560名（ストレスチェック）

②西宮市

実施期間：平成31年4月1日（月）～令和2年3月31日（火）

開催場所：西宮市消防局

実施人数：9名（相談）

③守口市門真市消防組合

実施期間：令和元年10月30日（水）～令和2年1月10日（金）

実施人数：361名（ストレスチェック）

11 外部評価の実施

多様な事業を適正かつ効果的、効率的に行っていくため、有識者からなる外部評価委員会を設置し、外部評価を実施した。

令和元年9月19日（木）に外部評価委員会を開催し、平成30年度実施分について評価を受けた。

委員名及び評価結果は以下のとおり。なお、評価結果については、兵庫県に報告するとともに、本センター及び機構のホームページ上で公表した。

(委員名)

野田 哲朗 兵庫教育大学大学院教授（委員長）
 瀧野 揚三 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター教授
 佐藤 睦 独立行政法人国際協力機構関西センター次長
 辻本 哲士 滋賀県立精神保健福祉センター所長

(評価結果)

個別事業評価

評価対象事業	評価
研修事業	A
情報の収集発信・普及啓発事業	A
連携・交流事業	S
相談事業	A
附属診療所の運営	A
ヒューマンケアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）	A
ヒューマンケアカレッジ事業（実践普及講座）	A
安定的な運営のための収支バランスの確保等	A
研究調査に係る総合的な評価	A

※評価基準

- S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分に達し得る優れた業績を上げている。
- A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。
- B：年度計画どおりといえない面もあるが、工夫若しくは努力によって中期計画を達し得る。
- F：年度計画を大きく下回っている。又は中期計画を達成し得ない可能性がある。

総合評価

- 当センターは、トラウマ・PTSDなど「こころのケア」に関する多様な機能を持つ拠点施設として、平成16年4月に全国に先駆けて設置され15年が経過した。

「こころのケア」に関する研究調査をはじめ、研修、相談・診療、情報発信・普及啓発、連携・交流といった5つの機能を有機的に関連付けながら、一体的に活動を展開し、いずれの側面においても、効果的、効率的に実施されており高く評価できる。
- 個々の事業評価については「個別事業評価」に記載のとおりであるが、とりわけ、地域連携・交流事業については、蓄積された知識や技術をもって被災地支援を積極的に行うことで、当センターの最も重要な機能の一つである。

当該年度も、引き続き東日本大震災や熊本地震の被災地に対する支援を行うとともに、発災直後から大阪北部地震や西日本豪雨災害の被災地にも赴き、被災地域のニーズに応える形で支援を行ってきたことは大いに評価できる。

これらは、被災者のみならず被災者を現地でサポートする個人や組織にとって有意であるだけでなく、関連の政策や制度、組織の在り方、人々の意識について改善や改革を促す機会となり得る点で極めて価値が高い。

当該年度の特筆すべき事項としては、ひょうごDPAT研修において、高知県で行われた南海トラフ地震を想定した内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練に参加したことやラグビーワールドカップ開催に備えたテロ事案を想定した兵庫県国民保護共同訓練に参加し実践的な訓練を行ったことが挙げられる。
- また、意見として、アジアやアフリカ等の開発途上国において、自然災害等による被災者の支援ニーズが増大していること、特にこれらの国々では、こころのケアについての経験が乏しいことから、海外に向けての情報発信や経験共有についても取り組むことを期待したい。

さらに、当センターの活動は持続可能な開発目標（SDGs）と合致する部分が多いと認識する。今後当センターの活動の理解者拡大を図っていくためにも、SDGsとの関係性をも考慮して広報活動に取り組むことを検討されたいかがだろうか。
- 今後、ますます当センターに期待される役割は増大するものと思われるが、人員体制や財政基盤について、さらに強化を図る必要があるのではないか。自主財源の確保には引き続き取り組むとしても、今後の増大するニーズに適切に応えていくための予算措置や実施体制の整備が検討されるべきである。

とりわけ、全国に先駆けて、「こころのケア」の中核を担う機関を設置し、災害支援の取り組みを始めた兵庫県においては、当センターがその機能を持続的に発揮するためにもなお一層の財政的支援、人的支援等の配慮をすることが強く望まれる。特に、当センターは開設15年を経過し、施設設備の老朽化が進んでいるため、今後も期待どおりの機能を果たすためには早急な対応が必要である。
- これからも、職員自身の心身の健康に留意しながら、現行の理念・方向性を継続するとともに、様々なトラウマ被害者に対応できるような専門家の育成に貢献することが望まれる。

III 参考

1 こころのケア国際シンポジウム（抄録）

阪神・淡路大震災25年事業



阪神・淡路大震災25年
兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念
こころのケア国際シンポジウム

災害とレジリエンス

開催報告書

会期

令和元年

11月7日(木) 13:00~17:45

会場

神戸ポートピアホテル「和楽」

こころのケア国際シンポジウム

災害とレジリエンス

開催概要

- 名称** 阪神・淡路大震災25年 兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念
こころのケア国際シンポジウム 災害とレジリエンス
- 会期** 令和元年11月7日(木) 13:00~17:45
- 会場** 神戸ポートピアホテル 本館地下1階「和楽」
神戸市中央区港島中町6-10-1
- 主催** こころのケア国際シンポジウム実行委員会
(兵庫県、公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構)
- 後援** 復興庁、JICA関西、朝日新聞神戸総局、読売新聞社、神戸新聞社、
サンテレビジョン、NHK神戸放送局、日本トラウマティック・ストレス学会
- 参加者数** 240名

事務局：(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL:078-200-3010 FAX:078-200-3017 E-mail:kensyu@j-hits.org

プログラム

- 13:00 **開 会**
挨拶…金澤 和夫(兵庫県副知事)
五百旗頭 真(公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長)
- 13:15 兵庫県こころのケアセンター 15年の活動
加藤 寛(兵庫県こころのケアセンター センター長)
- 13:45 **基調講演1**
東日本大震災後の子どものこころのケア ~8年間の診療と研究から見えること~
司会…大澤 智子(兵庫県こころのケアセンター 研究主幹)
演者…八木 淳子(岩手医科大学神経精神科学講座 講師/いわてこどもケアセンター 副センター長)
- 14:35 **基調講演2**
アメリカの災害後の心理社会支援:教訓、最近の動向、および災害救援者への支援
司会…大澤 智子(兵庫県こころのケアセンター 研究主幹)
演者…パトリシア・ワトソン(アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官)
- 15:25 **休 憩**(15分)
- 15:40 **パネルディスカッション** 司会…加藤 寛(兵庫県こころのケアセンター センター長)
- パネラー報告1**
インドネシアでの被災者の心のケアについて:心理支援—災害精神保健
報告者…エニ・ヌライニ・アグスティニ
(インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学 精神保健看護学部 講師)
- パネラー報告2**
福島原発事故が与えたメンタルヘルスへの影響:どのように乗り越えるべきか?
報告者…前田 正治(福島県立医科大学医学部 災害こころの医学講座 教授)
- パネルディスカッション**
パネリスト…八木 淳子(岩手医科大学神経精神科学講座 講師、いわてこどもケアセンター 副センター長)
パトリシア・ワトソン(アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官)
エニ・ヌライニ・アグスティニ
(インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立イスラム大学 精神保健看護学部 講師)
前田 正治(福島県立医科大学医学部 災害こころの医学講座 教授)
- 17:45 **閉 会**

阪神・淡路大震災25年 兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念



こころのケア国際シンポジウム

災害とレジリエンス

開会挨拶



金澤 和夫
兵庫県副知事

阪神・淡路大震災を機に重要視されるようになった「こころのケア」を専門とする全国初の拠点施設として、平成16年4月に兵庫県こころのケアセンターを開設した。以来、国内外の災害や事故への支援活動や効果的な心理的支援方法の確立に取り組んできた。

平成26年度には、精神保健活動の支援チーム「ひょうごDPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team)」を発足させた。こころのケアセンターはその統括役として、直接支援のみならず支援者に対するメンタルサポートも行い、地域全体として元気を取り戻すことを目指すとともに、平時には研修を通じて実務者の育成や関係機関の連携強化を図っている。

今日のシンポジウムで得られる知見が、巨大災害発生時の被災者のこころのケアに役立つことを願っている。



五百旗頭 真
公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構 理事長

当研究機構は、災害を記録するだけでなく、将来の災害から市民を守るため、そのスキルを継承して高めていくためのシンクタンクとして、人と防災未来センターとこころのケアセンターを傘下に持ち活動を展開している。

社会が成熟し、平和であればあるほど、「こころのケア」が重要になってくる。インクルーシブという言葉があるが、社会の中で置き去りにされる、災害のときに弱者として見捨てられるということがあってはならない。最後の一人までしっかりとケアすることが重要だ。

国内外から講師を招いてシンポジウムを開催できることをうれしく思う。本日の議論が、成熟した平和な令和の日本社会において、心の問題に共に対処していく土台となることを期待する。

兵庫県こころのケアセンター 15年の活動



加藤 寛
兵庫県こころのケアセンター センター長

レジリエンスとは、苦境を乗り越えて回復していく能力。個別の治療や支援の継続ではなく、最終的には自身での立ち直りを目指すため、レジリエンスを高めることが課題になる。そのメニューの一つが心理的ケアで、生活再建、健康的な生活の維持、コミュニティの再建、役割の回復などが必要。被災者・被害者が必要とする現実的な支援を行うことがこころのケアの本質である。

阪神・淡路大震災を契機とし、その後の事件・事故、災害で重要性が認識されたこころのケアは、DVや児童虐待など日常社会に潜む暴力への社会的関心の高まりや法整備とあいまって注目を集めてきた。

2004年のセンター設立以来、新潟県中越地震、台風23号災害、JR福知山線脱線事故などで支援を行うほか、JICAからの要請で国際貢献にも携わってきた。スマトラ島沖地震・津波、中国四川大地震、チリ地震などである。

2011年の東日本大震災の直後、被災地に入ったときには絶望しか思い浮かばなかった。こころのケアチームの派遣、現地の保健所職員へのコンサルテーションの継続、惨事ストレスにさらされた消防職員や行政職員への支援などを行ったが、実は、伝えたことより学んだことの方が多い。

被災地支援の基本は、被災地内のネットワークの中で現実的な支援をしていくこと。また、外部支援が過剰になると受援側が疲弊するので、その調整が最重要の課題だ。

真実は現場にある。メディアや過去の経験から分かっているつもりでも、現場に行かなければ分からない状況がある。現場で支援のあり方を考え、創意工夫し、思いついたことをすぐに実行する柔軟性が重要。

今後も、地域支援活動や研修を通じて情報発信に努め、トラウマ被害を受けた方には有効性の証明された診療など意味ある介入を続けていきたい。

阪神・淡路大震災25年 兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念

基調講演1



司会 大澤 智子



演者 八木 淳子

東日本大震災後の子どものこころのケア ～8年間の診療と研究から見えること～

司会… **大澤 智子** 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹

演者… **八木 淳子** 岩手医科大学神経精神科学講座 講師/いわてこどもケアセンター 副センター長

いわてこどもケアセンターの特徴は巡回診療システムで、医療チームが3沿岸branchを週1回訪問する。学校や地域と連携した見守りと、必要に応じて専門治療やコンサルテーションを行う多層的ケアシステムを構築し、多機関・多職種のネットワークづくりも進んだ。2013年の診療開始時は沿岸部の受診者の割合が高かったが、今は全県から受診。当初PTSDを含むストレス関連障害が3分の1強だったが、2018年には発達障害が6割を超えた。

かつて経験したことのない恐怖体験と“あいまいさ”を含んだ喪失による悲嘆に加えて、慢性複雑性のトラウマが重くのしかかってくるのが東日本大震災の特徴。コミュニティの崩壊、機能不全家族、DVやいじめの遷延も含めて複雑な様相を呈している。支援がないまま慢性化して病理性が深まり、複雑性PTSDの状態に陥っている子どもと出会うことがいまだにある。

母親のメンタルヘルスの問題は、子どものメンタルヘルスの問題/行動上の問題に有意に関連するが、地域への信頼、あるいは地域の相互扶助、つまりしっかりしたソーシャルキャピタルがあれば、母親のメンタルヘルスの問題が軽減される。

震災を直接体験していない子どもたちが集団行動になじめない、保護者のメンタルヘルスが心配という声が被災3県の現場で聞かれ、甚大被害地域で顕著だったため、調査と支援を行っている。大規模災害後は、災害後の混乱期に誕生した子どもとその家族に対しても幅広く長期的な支援の継続が必要だ。

信頼関係の構築が子どものこころのケアの基本。治療者・支援者に求められるのは、子どもたちがトラウマによって失った、世界に対する信頼を取り戻していく過程に、ただひたすら伴走する大人としてその場にとどまり続けることである。

基調講演2



司会 大澤 智子



演者 パトリシア・ワトソン

アメリカの災害後の心理社会支援： 教訓、最近の動向、および災害救援者への支援

司会… **大澤 智子** 兵庫県こころのケアセンター 研究主幹

演者… **パトリシア・ワトソン** アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官

アメリカの心理社会支援には長い歴史がある。1906年、サンフランシスコ地震と火災のため赤十字が派遣され、その後、二つの世界大戦で戦闘ストレスに注目が集まった。1972年には災害精神保健を担う政府機関が設立され、1974年に支援活動と研修が開始され、1980年にPTSDという言葉が使われた。

近年、PTSD等のリスクの高い災害救援者に注目が集まるようになり、本の出版やガイドラインの制定等、情報提供にも努めてきた。

その中で開発されたサイコロジカル・ファースト・エイド(PFA) / ストレス・ファーストエイド(SFA)は、回復に必要な資源の紹介や助言によりレジリエンスの強化を促し、最初の危機を乗り越える手助けをする。次の要素があると人々やコミュニティはより回復しやすいということが分かっており、被災者だけでなく災害救援者や日常生活など、様々な場面で活用できる。

- ① 安全と安心(生物学的に脅威にさらされていると、メンタルヘルスにも影響がある)
- ② 穏やかさ(災害直後は困難だろうが、できるだけ穏やかであろうとする)
- ③ 社会的つながり(信頼できる人がいる。つながりを感じることができる)
- ④ 自己効力感(自分はこれを乗り越えることができるという気持ち)
- ⑤ 希望(楽観的である。うまくいくと信じる)

さらに、回復に役立つスキルをメンタルヘルスの専門家が提供するのための「サイコロジカル・リカバリースキル(SPR)」や、診断は行わず、地元のセラピストが短時間で学べる「災害後のCBT(認知行動療法)」も開発した。

日本からも多くの教訓を学んだ。日本の津波、大震災からの経験だ。非常に長期的なケアを広範囲に提供しなければいけない。多くの研究によるとPTSDなどの場合、治療に来るまでに平均10年かかる。大きな問題が後になって出てくることを忘れてはならない。

こころのケア国際シンポジウム

災害とレジリエンス

パネルディスカッション パネラー報告1



報告者 エニ・ヌライニ・アグスティニ

インドネシアでの被災者の心のケアについて： 心理支援—災害精神保健

司会…加藤 寛 兵庫県こころのケアセンター センター長

報告者…エニ・ヌライニ・アグスティニ インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー州立
イスラム大学 精神保健看護学部 講師

昨年のロンボク島地震の際、被災者への心理社会的支援提供のため、インドネシア精神保健看護協会のメンバーとして現地に派遣された。地元で精神科病院はあったが精神保健看護師に災害対応の知識が十分ではなかったため、災害の概念、心理的反応、心理社会的支援戦略、報告のためのガイドラインを内容とする、インドネシア初のガイドラインを作成した。

派遣前会議で地元の精神保健看護師に対してシミュレーションやロールプレイなどの研修を行ったうえで、8名のグループで心理社会的支援活動を展開した。学齢期の子どもたちにはプレイセラピーを実施。ただ絵を描いてもらうのではなく会話を通じて安心感をもってもらう。大人には漸進的筋弛緩法と5本指のリラクゼーション技法を提供し、できる限り日々の活動を続けるよう促した。たとえば集団で祈ることやつながりを確認でき、助け合いの気持ちが生まれる。

スンダ海峡津波の際は、現地に精神科病院がないため、NPOと協働して取り組むこととした。「心理社会的支援を提供する」と言うと否定的な反応が返ってくるが、「お手伝いしたいのでリラックスする方法をしてみませんか」だと受け入れられる。柔軟な対応が必要と感じた。また、感染症アウトブレイク予防のため、衛生キットを配布し、手の衛生についての健康教育も行った。

二つの災害を比較すると、前者は精神科病院があったため安定した活動ができ、国家レベルの災害と指定されたため人的資源が十分だった点で、後者と大きく異なる。

活動する中で必要だと感じたことは、状況に柔軟に対応する能力、適切な評価と予測、良好なネットワーク、そして行政機関が災害精神保健の問題に意識を向けることである。

パネルディスカッション パネラー報告2



報告者 前田 正治

福島原発事故が与えたメンタルヘルスへの影響： どのように乗り越えるべきか？

司会…加藤 寛 兵庫県こころのケアセンター センター長

報告者…前田 正治 福島県立医科大学医学部 災害こころの医学講座 教授

福島原発事故で、住民は危機的な状況に追い込まれた。避難区域が日ごとに拡大し、波状的に恐怖が広がった。「帰還準備をしてください」と言われ5年間そのままの地区もあり、「あいまいな喪失」が福島を理解するための一つの大きな鍵となる。避難指示解除後も、50歳未満では帰還をためらう人が圧倒的に多く、高齢化率が上がり自治体としての存続も危機に直面している。

強制避難者20万人が対象の調査では、うつ病のハイリスク率が高く、徐々に減ったものの一般人口の2倍で、PTSDハイリスク者も1割程度いる。福島のうつの要因は、死別や家の全壊などのいわゆる喪失ではなく、自分が曝露した放射線の次世代影響という不安だった。避難住民が放射線の遺伝的影響に関する、あるいは補償を受けることに対するスティグマに晒されることもあるのが特徴。2年前の東京都民のアンケート調査によると、福島県産の食品の摂取や旅行をためらう人が多く、福島の現状を正しく理解していると思う人は1割に届かず、関心が薄れている人が6割近くで、いかにイメージを変えるかが課題。

2012年設立のふくしま心のケアセンターは、市町村等とも連携してアウトリーチや電話支援を行うほか、避難者の集団活動、保健師・市町村職員の啓発、自殺予防や節酒キャンペーンにも取り組んでいる。

約5年前だが、自治体職員の18%がうつ病、9%が自殺リスクと疲弊が激しい。住民からの頻回の苦情や怒りに曝露されたことが主な要因で、家族を避難先に残して帰還自治体で働く、または長距離通勤といった状況もある。予算が震災前の3～4倍で推移するなか幾つかの市町村では退職者が2割を超える危機的状況。復興の重要な担い手である自治体職員のサポートにも取り組む必要がある。

阪神・淡路大震災25年 兵庫県こころのケアセンター開設15周年記念

パネルディスカッション



司会 加藤 寛

司 会…**加藤 寛** 兵庫県こころのケアセンター センター長

パネリスト…**八木 淳子** 岩手医科大学神経精神科学講座 講師/いわてこどもケアセンター 副センター長

パトリア・ワトソン アメリカ国立PTSDセンター 教育専門官

エニ・ヌライニ・アグスティニ インドネシアジャカルタ シャリーフ・ヒダヤトゥッラー
州立イスラム大学 精神保健看護学部 講師

前田 正治 福島県立医科大学医学部 災害こころの医学講座 教授



パネリスト 八木 淳子

前田 回復に必要な哲学的な意味でのシフトとは何か。福島の場合、既存の復興モデルは全く役に立たない、新たなモデルが必要だと考えている。

ワトソン こうした事故を経験すると、より共感力を持つようになる。一体感の中で、人とは何か、レジリエンスとは何かを、個人として、コミュニティとして再定義する。個人としても変化を受け入れることが必要。

加藤 阪神・淡路大震災後、当時の貝原知事が、被災前より良い社会を作ろうという意味で「創造的復興」という言葉が使われた。当時の政府は受け入れなかったが、その後の災害では当然の考え方になった。阪神・淡路大震災が残した被災地域全体のレジリエンスを高めるためのモデルだった。

福島の復興モデルを考えるのは大きな挑戦だが、スティグマを減らす知恵はあるか。

ワトソン リスクを調査し、その情報を正確に伝えていくことだろうか。自分に対するセルフスティグマを減らすことも重要だろう。思いやりも必要だ。孤立した人、いじめられた経験をもつ人とのつながりが助けになるかもしれない。

前田 特に学校での教育が大事。精神障害者への偏見も、当事者がどれだけ苦しんでいるか伝えるのが最も効果的だった。

加藤 岩手での実践に感銘を受けた。子どものトラウマに影響するさまざまな脆弱性を軽減してレジリエンスを高めるためには、どうすればよいか。

八木 研究の知見を臨床と結び付けて共有すること。正しい情報が伝わらないために苦しむ人は多い。ソーシャルキャピタルについて話したが、当たり前前のが結果として出てくると、なすべきことがわかる。地域の力は大きいと学んだ機会でもあった。

学校では、県内外の先生方の支援を得て、子どもたちにストレスマネジメントを教えている。スクールカウンセラーと連携するプログラムも考えている。

ワトソン 中退率が高い学校で、授業とは別にホームルームを決めて、週に1時間程度、子どもたちが話したいことを話すことで中退率が大幅に下がった。信頼できるという気持ちで、つながれることが大切。

発達上のニーズは二つあり、一つはすごいと思ってもらうこと。もう一つは自分を気にしてくれる人がいること。多くの文化で前者が強調されがちだが、怪我をしたときに休むのと同様、どんなケアが必要か理解して、優しくなることが大切だ。そして期待値を変えること。そうすれば、他のニーズに目を向けることができる。

八木 被災3県では教師がトラウマについて学び、支援者も多くいて、この数年で、頑張れ一辺倒ではなくなってきた。

加藤 まさに哲学的なシフトが実現されている。

インドネシアで子どもを守る方法を教えてほしい。

アグスティニ 拡大家族という考え方があり、祖父母、叔父、叔母が一つの家族として機能する。家族自体の人数も多く、たくさんの大人が子どもたちを守っている。

宗教によってもレジリエンスが高まる。親は子どもに、もっと神に祈りを捧げ、許しを請い、心を穏やかに保てば、神に守ってもらえると教える。

学校の減災プログラムでは、コミュニティの中での避難方法を教える。友人の安否確認キャンペーンも始まった。

加藤 今日は支援者支援も大きなテーマだった。福島の行政職員をいかに守るか、追加コメントはあるか。

前田 慢性期の支援者のストレスは着目されず、ヒーローどころか批判の対象になり自己効力感が下がる。慢性期の支援者への支援について助言いただきたい。

ワトソン 批判ではなく称賛すべきとの啓発が必要。リーダーや上司がスタッフに感謝を伝えることも大切。災害後、アドレナリンが出ていた間は疲労に気づかず、やがて慢性ストレスが引き金となって自己免疫疾患が出てくる。セルフケアも大切だ。

加藤 阪神・淡路大震災では、災害支援者、特に消防士や自衛隊員が傷ついたことに、日本の文化の中で初めて光を当てることができ、惨事ストレス対策が進んだ。

SFAやSPRを日本でも広めようとしているが、住民に受け入れられていない現実と直面する。「こころのケア」という言葉でも受け入れられよう。

ワトソン 言葉は変わるもの。被災者も、victim, survivor, affected peopleと変わってきた。どういう名前で呼ぶかそのコミュニティが定義するのが一番いい。ゴールが何かを考え、優先順位も自分たちに合わせ、お互いどう助け合うかを考えていく。

前田 兵庫県こころのケアセンターの活動を通じて「こころのケア」という言葉が根付いた。東北でも精神的な支援が広く受け入れられるようになった。一層の活動を期待する。



パネリスト パトリア・ワトソン



パネリスト 前田 正治

2 研究員の活動実績

(1) 刊行物

【公表論文】

- ・ 亀岡智美. トラウマフォーカスト認知行動療法 (TF-CBT). 精神療法, 45 (3), 373-374. 2019
- ・ 亀岡智美. トラウマを抱えた養育者への子育て支援. こころの科学, 206 (7), 66-69. 2019
- ・ 亀岡智美. PTSD. 精神科, 35 (1), 152-156. 2019
- ・ 亀岡智美. トラウマフォーカスト認知行動療法 (TF-CBT). トラウマティック・ストレス, 17 (1), 45-53, 2019
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケアと小児期逆境体験. 精神医学, 61 (10), 1109-1115, 2019
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケアの必要性. こころの科学, 208, 24-28, 2019
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケア. 小児科臨床, 72 (12), 1973, 2019
- ・ 亀岡智美. TF-CBT (Trauma-Focused Cognitive Behavioral Therapy: トラウマフォーカスト認知行動療法). 小児科臨床, 72 (12), 1974, 2019
- ・ 亀岡智美. 発達障害と心的外傷. Modern Physician, 39 (12), 1115-1117, 2019
- ・ 亀岡智美. 逆境の環境で育った子どもへの治療的関わり～トラウマインフォームドケアの視点から～. 児童青年精神医学とその近接領域, 60 (4), 411-414, 2019
- ・ 亀岡智美. 心的外傷およびストレス因関連障害. 小児内科, 51 (12), 1945-1949, 2019
- ・ 亀岡智美. トラウマフォーカスト・アプローチ. 臨床心理学, 臨床心理学, 20 (1), 43-47, 2020
- ・ 亀岡智美. 精神科医療におけるトラウマインフォームドケア. 精神神経学雑誌, 122 (2), 160-166, 2020
- ・ Tanaka E, Tennichi H, Kameoka S, Kato H. Long-term psychological recovery process and its associated factors among survivors of the Great Hanshin-Awaji Earthquake in Japan: a qualitative study. BMJ Open. 9:e030250. 2019
- ・ Tanaka E, Iso H, Tsutsumi A, Kameoka K, You Y, Kato H. School-based psychoeducation and storytelling: Associations with long-term mental health in adolescent survivors of the Wenchuan earthquake. Epidemiology and Psychiatric Sciences. 29:e65. 2019
- ・ 田中英三郎. PTSDの治療選択. トラウマティック・ストレス17 (1) 54-61. 2019
- ・ 田中英三郎. Complex Post Traumatic Stress Disorder. 児童青年精神医学とその近接領域 (印刷中)
- ・ 田中英三郎. 中長期的なこころのケア. 最新精神医学25 (1) 39-44. 2020
- ・ 大類真嗣, 田中英三郎, 前田正治, 八木淳子, 近藤克則, 野村恭子, 伊藤弘人, 大平哲也, 井上彰臣, 堤明純. 災害時のメンタルヘルスと自殺予防. 日本公衆衛生雑誌67 (2) 101-110. 2020

【著書・翻訳】

- ・ 亀岡智美. 子どものトラウマとアセスメント. 日本トラウマティック・ストレス学会編集委員会編：子どものト

- ラウマ. 33-44. 金剛出版. 2019.
- ・ 亀岡智美訳. えがおをわすれたジェーン. 誠信書房. 2019 (Kaplow JB, Pincus D : Samantha Jane's Missing Smile : A Story About Coping With the Loss of a Parent. Magination Press. 2007.)
 - ・ 亀岡智美. PTSDのトラウマに特化した認知行動療法. 日本認知・行動療法学会編：認知行動療法事典. 342-343. 丸善出版. 2019.
 - ・ 亀岡智美, 郭麗月, 田中究監訳. 虐待された子どもの治療【第2版】. 明石書店, 2019 (Robert, M, Reece et al. ed. Treatment of Child Abuse-Common Ground for Mental Health, Medical, and Legal Practitioners. Second Edition. Jons Hopkins University Press, 2014.)
 - ・ 田中英三郎訳. 虐待された子どもへの治療【第2版】医療・心理・福祉・法的対応から支援まで. 亀岡智美/郭麗月/田中究監訳. 203-227, 255-265. 明石書店. 2019
 - ・ 菊池安希子、大澤智子共訳. EMDRツールボックス 複雑性PTSDと解離の理論と治療. 星和書店. 2019 (Jim Knipe: EMDR Toolbox. Springer Publishing Company. 2015)
 - ・ 大澤智子. 「災害看護学・国際看護学」神崎初美・西上あゆみ編. NHK出版. 2020 (分担執筆「災害とこころのケア」および「災害時の要援護者へのケア(子ども、精神科疾患患者)」の項目担当)
 - ・ 大塚美菜子 (分担翻訳). 第7章評価段階. EMDR標準プロトコル実践ガイドブック—臨床家, スーパーバイザー, コンサルタントのために. 太田茂行・市井雅哉 (監訳). 136 - 149. 誠信書房. 2019 (Andrew M. Leeds: A Guide to the Standard EMDR Therapy Protocols for Clinicians, Supervisors, and Consultants, 2nd edition. Springer Publishing Company. 2016)
 - ・ 大塚美菜子 (翻訳). 物語とその語り手: 考えとこころとからだ: 子どものための癒しとEMDR療法の絵本. 太田茂行 (監訳). 武島波 (絵). スペクトラム出版. 2019 (Ana M. Gomez: Stories and Storytellers: The Thinking Mind, the Heart, and the Body. 2018)

【その他刊行物】

- ・ 亀岡智美. 「子どものメンタルヘルス」～トラウマケアの重要性～. 富山県心の健康センター こころの健康だより. No. 42, 2019. 10
- ・ 大澤智子. サイコロジカル・ファーストエイド (心理的応急処置) を保健活動に. 地域保健. 50 (5) : 20-23. 2019
- ・ 鈴木逸子, 沢井智子. 構造的解離を伴うPTSDへのナラティブ・エクスポージャー・セラピー. サイコセラピー学会雑誌, 21 (1), 2019, in press (3月出版予定)

(2) 学会・研究会における発表

【特別講演、教育講演、パネルディスカッション、シンポジウム、一般演題、ワークショップ等】

- ・ 亀岡智美. 子どものPTSDのアセスメント (プレコングレス). 第18回日本トラウマティックストレス学会. 2019/6/14. 京都

- ・ 亀岡智美. 小児福祉分野におけるトラウマインフォームドケア. 大会企画シンポジウム「各領域におけるトラウマインフォームドアプローチ」. 第18回日本トラウマティックストレス学会. 2019/6/15. 京都
- ・ 亀岡智美. 精神科医療におけるトラウマインフォームドケア. シンポジウム49「子どもを虐待したくてしているわけじゃない！—逆境体験（ACE）に精神科医療はどう向き合うか—」. 第115回日本精神神経学会学術総会. 2019/6/21. 新潟
- ・ 亀岡智美. 逆境的小児期体験とトラウマインフォームドケア. シンポジウム4「児童虐待と家族支援 - 一般精神科医にもできるかかわり」. 第25回（通算46回）日本精神科診療所協会学術研究会. 2019/6/23. 埼玉
- ・ 亀岡智美. 子どものPTSDの治療. 第57回近畿児童青年精神保健懇話会. 2019/8. 10. 大阪
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケア. 文部科学省2018採択課題解決型高度医療人材育成プログラム精神領域意見交換会. 2019/8. 24. 東京
- ・ 亀岡智美. 小児精神神経科領域とトラウマインフォームドケア（教育講演）. 第122回日本小児精神神経学会. 2019/11/2. 福井
- ・ 亀岡智美. 子どものPTSD治療とアタッチメント. シンポジウム10「愛着障害とトラウマ後遺症」. 第60回日本児童青年精神医学会総会. 2019/12/7. 那覇
- ・ 亀岡智美. 子どもへのトラウマケアの重要性. JaSPCANおおさかミニ学術集会（第3回）. 2020/1/25. 大阪
- ・ 大澤智子. 西日本豪雨における外部組織の役割～地域の専門職を支えるために～. 日本トラウマティックストレス学会シンポジウム. 2019/6/16. 京都
- ・ 大澤智子. 消防業務従事者へのトラウマケア：ピアサポートの現状と課題. 日本トラウマティックストレス学会シンポジウム. 2019/6/16. 京都
- ・ 大澤智子. 東日本大震災復興期でのメンタルヘルス支援-職域での支援と心理学的支援-. 2019/8/1. 仙台
- ・ 大澤智子. 教育講演：支援者ストレス. 日本災害看護学会. 2019/9/6. 北見
- ・ 田中英三郎. 国際保健分野での災害精神保健に関する活動と研究. 第18回日本トラウマティック・ストレス学会. 2019/6/16. 京都
- ・ 田中英三郎. 複雑性悲嘆療法. 第32回日本総合病院精神医学会総会. 2019/11/15. 岡山
- ・ 田中英三郎. ある精神科医が見てしまった国際保健の仕事の現場. 第26回多文化間精神医学会. 2019/12/1. 京都
- ・ Itsuko Domen: "Narrative Exposure Therapy (NET) for a patient with PTSD and dissociative identity disorder: A case study." 16th European Conference on Traumatic Stress, The Netherlands, 14th June, 2019.
- ・ Itsuko Domen: "Narrative Exposure Therapy (NET) for the treatment of complex PTSD and dissociation: A study of the stages of recovery from dissociation." 7th International ESTD Congress-Rome 2019, Rome, Italy, 24th October, 2019.
- ・ 鈴木逸子: 構造的解離を伴うPTSDへのNarrative Exposure Therapy (NET) 実施の工夫. 第20回日本サイコセラピー学会 2019/5/11. 神奈川

(3) 講演

- ・ 加藤寛. 災害医療活動とこころのケア. 兵庫県看護協会. 2019/7/25. 神戸
- ・ 加藤寛. こころのケア (PTSD). JICA 研修生 (イラン). 2019/9/5. 神戸
- ・ 加藤寛. 惨事対策ストレス研修. 高知県内20消防署職員. 2019/9/11. 高知
- ・ 亀岡智美. 子どものトラウマの基礎知識～トラウマインフォームドケアの視点から～. カウンセリングワークショップ. 青森精神療法研究会. 2019/5/25. 青森
- ・ 亀岡智美. 発達障害とトラウマ. カウンセリングワークショップ. 青森精神療法研究会. 2019/5/26. 青森
- ・ 亀岡智美. 子どものPTSDアセスメント. 子どものPTSDアセスメント研修会. 群馬県知事部局勤務心理職会. 2019/6/22. 高崎
- ・ 亀岡智美. 生活場面でのトラウマ症状に気づこう. トラウマケア研修会. 兵庫県こども家庭センター. 2019/6/25. 明石
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケアについて学ぶ. 第52回研修会. 兵庫県臨床心理士会. 2019/7. 21. 神戸
- ・ 亀岡智美. 逆境に生きる子どもたちへの支援. 区域別人権教育研究協議会全大会. 神戸市立桜の宮中学校. 2019/7/26. 神戸
- ・ 亀岡智美. 性被害を受けた子どもの理解と支援. 性暴力被害相談にかかわるの方々のための公開講座. あおもり被害者支援センター. 2019/8/25. 青森
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケア. 子どものこころの拠点病院事業研修会. 大阪精神医療センター. 2019. 8. 26. 大阪
- ・ 亀岡智美. 子どものPTSDアセスメント. 子どものPTSDアセスメント研修. 東北大学大学院医学系研究科精神医学分野兼予防精神医学寄付講座. 2019/9/6. 仙台
- ・ 亀岡智美. 解離ケースの理解と支援. 児童福祉司カフェテリア研修. 愛知県中央児童・障害者相談センター. 2019/9/27. 名古屋
- ・ 亀岡智美. 精神科医療におけるトラウマインフォームドケア. 大学院講座講演会. 関西医科大学. 2019/10/7. 大阪
- ・ 亀岡智美. 子どもの行動の意味をさぐる～トラウマ研究の視点から～. 近畿児童相談所職員研修. 兵庫県中央子ども家庭センター. 2019/11/8. 神戸
- ・ 亀岡智美. 子どものトラウマ治療について～現状と課題～. 職員研修会. 山梨立正光生園. 2019/11/18. 甲府
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケア～トラウマを抱えた子どもたちへの関わり・対応と環境整備～. 職員研修会. 山梨県児童養護施設部会. 2019/11/18. 甲府
- ・ 亀岡智美. 虐待の評価とケア. 思春期精神保健対策医療従事者専門研修. 国立国際医療研究センター国府台病院. 2019/11/19. 東京
- ・ 亀岡智美. 子どものトラウマケア - 基礎と実践 -. 第26回勉強会. 子どもソーシャルワーク勉強会. 2019/11/23. 神戸
- ・ 亀岡智美. トラウマに対するケアについて～TF-CBTやトラウマインフォームドケア～. 心理委員会研修会. 大阪市児童福祉施設連盟. 2019/11/29. 大阪

- ・ 亀岡智美. 暴力と子どもたち～家庭内暴力が子どもたちに残すものとは～. 三重県DV被害者支援事業. NPO法人女性と子どものヘルプライン・MIE. 2019/12/2. 津
- ・ 亀岡智美. トラウマフォーカスト認知行動療法について. 大分認知行動療法公開セミナー. 大分メンタルヘルスネット. 2019/12/8. 大分
- ・ 亀岡智美. トラウマインフォームドケア～虐待を受けた子ども達のトラウマに気づく、ケアする～. 要保護児童対策地域協議会構成機関支援者研修. 横浜市こども青少年局. 2020/1/10. 横浜
- ・ 亀岡智美. 虐待が子どもに与える心理・行動的影響の理解と支援. 福祉専門職研修. 大阪府福祉部福祉総務課. 2020/1/24. 大阪
- ・ 亀岡智美. 虐待の評価とケア. 思春期精神保健対策医療従事者専門研修. 国立国際医療研究センター国府台病院. 2020/1/28. 市川
- ・ 亀岡智美. 虐待が被害時に及ぼす影響, 保護者・被害児への支援について. 相談関係機関連絡協議会. 岡山少年鑑別所. 2020/1/31. 岡山
- ・ 亀岡智美. 青年期の自傷行為について～傷つくからだところ～. 児童虐待対策スーパービジョン事業. 伊丹市健康福祉部. 2020/2/7. 伊丹
- ・ 亀岡智美. 虐待が子どもに与える心理・行動的影響の理解と支援. 子ども家庭センター職員研修. 大阪府中央子ども家庭センター. 2020/2/7. 大阪
- ・ 亀岡智美. 傷つく子どもの身体とところ～トラウマインフォームドケアの視点から～. 子どもの発達を考える会. 東三河子どもの心を支えるネットワークの会. 2020/2/8. 豊橋
- ・ 亀岡智美. 解離について. 処遇困難事例検討会議. 大阪府中央子ども家庭センター. 2020/2/14. 大阪
- ・ 亀岡智美. 体罰によらない子育ての推進. 児童虐待防止研究集会. 大阪市こども青少年局子育て支援部. 2020/2/14. 大阪
- ・ 亀岡智美. 児童福祉施設におけるトラウマインフォームドケア (TIC). 児童心理臨床セミナー. 兵庫県立清水が丘学園. 明石
- ・ 亀岡智美. 児童福祉現場における被虐待児へのトラウマインフォームドケア. 専門性強化研修. 徳島県民環境部次世代育成・青少年課. 2020/2/25. 徳島
- ・ 亀岡智美. 『その人』を理解することから始まる支援～トラウマインフォームドケアから支援を考える～. 地域課題の取組みに関する研修. 大阪府こころの健康総合センター. 2020/2/28. 大阪
- ・ 亀岡智美. 課題や困難を抱える子どもに対する心のケア、カウンセリングなどについて. 子どものこころのケア研修. 尼崎市長. 2020/3/24. 尼崎
- ・ 大澤智子. ラインケア. メンタルヘルスケア研修. 高砂市民病院. 2019/4/24. 高砂
- ・ 大澤智子. セルフケア. メンタルヘルスケア研修. 高砂市民病院. 2019/4/26. 高砂
- ・ 大澤智子. 犯罪被害者等への対応要領について. 犯罪被害者支援担当者研修会. 京都府警察学校. 2019/5/16. 京都
- ・ 大澤智子. メンタルヘルス ストレスマネジメント. 令和元年度初任科教育課程 (第96期初任科). 神戸消防学校.

2019/5/17. 神戸

- ・ 大澤智子. メンタルヘルスについて. 令和元年度消防士長昇任課程. 神戸市消防学校. 2019/5/22. 神戸
- ・ 大澤智子. パワーハラスメントの予防について. 令和元年度職員研修. 高幡消防. 2019/6/20. 高幡
- ・ 大澤智子. メンタルヘルス. 第84期兵庫県消防学校初任教育. 兵庫県広域防災センター兵庫県消防学校. 2019/7/2. 三木
- ・ 大澤智子. 被災者及び被害者を考えるために～サイコロジカル・ファーストエイド (PFA) を学ぶ～. 令和元年度災害時心のケア研修会. 三重県人権センター. 2019/7/10. 三重
- ・ 大澤智子. 災害時危機的状況における支援者の対応 サイコロジカル・ファーストエイド研修 (PFA:心理的応急処置). 令和元年度災害時自殺対策研修. 広島県看護協会会館. 2019/7/23. 広島
- ・ 大澤智子. 消防職員のための惨事ストレス研修. 地方公務員安全衛生推進協会. 三田NNホール. 2019/7/25. 東京
- ・ 大澤智子. SPR. シンポジウム 東日本大震災復興期でのメンタルヘルス支援～職域での支援と心理学的支援～. TKPガーデンシティ仙台. 2019/8/1. 宮城
- ・ 大澤智子. 消防職員のための惨事ストレス研修. 富山県消防長会. 富山市消防局. 2019/8/9. 富山
- ・ 大澤智子. 災害発生時における子どものこころのケアについて. 神崎郡小中学校養護教諭研修会. 福崎町サルビア会館. 2019/8/22. 福崎町
- ・ 大澤智子. 消防職員団の惨事ストレスや心的外傷後ストレス障害の発生予防・軽減等. 消防庁緊急時メンタルサポート. 京都市消防学校. 2019/8/23. 京都
- ・ 大澤智子. 支援者のメンタルケア. 2019年度被害者支援員養成講座. 天王寺区民センター. 2019/8/23. 大阪
- ・ 大澤智子. 支援者支援. JICA 国別災害後のこころのケア研修. 兵庫県こころのケアセンター. 2019/8/29. 神戸
- ・ 大澤智子. 教育講演4「心のケア」. 一般社団法人日本災害看護学会第21回年次大会. 日本赤十字北海道看護大学. 2019/9/6. 北海道
- ・ 大澤智子. 惨事ストレス対策 (基礎) 研修. 高知県消防長会. オーテピア. 2019/9/11～12. 高知
- ・ 大澤智子. 高知市 ハラスメント (いじめ) 防止研修. こうち人づくり広域連合 講師派遣研修事業. オーテピア高知図書館. 2019/9/13. 高知
- ・ 大澤智子. 消防職員団の惨事ストレスや心的外傷後ストレス障害の発生予防・軽減等. 消防庁緊急時メンタルサポート. 京都市伏見消防署. 2019/9/13. 京都
- ・ 大澤智子. 消防職員のための傾聴方法. 奈良県広域消防組合メンタルヘルス研修. 奈良県広域消防組合消防本部. 2019/9/17～18. 奈良
- ・ 大澤智子. 災害時のこころのケア. 災害時こころのケア研修会. 徳島県精神保健福祉センター. 2019/10/4. 徳島
- ・ 大澤智子. PFA (サイコロジカル・ファーストエイド) 研修. 徳島県臨床心理士会災害対策チーム主催研修会. アスティとくしま. 2019/10/5. 徳島
- ・ 大澤智子. 惨事ストレスについて. 惨事ストレス研修会. 豊岡市消防本部. 2019/10/8, 9. 豊岡
- ・ 大澤智子. セルフケア研修&ラインケア研修. 豊岡市役所職員研修. 豊岡市役所. 2019/10/9, 10. 豊岡

- ・ 大澤智子. 惨事ストレスについて. 幹部教育 (新任消防司令補ステップアップ研修). 京都市消防学校. 2019/10/16. 京都
- ・ 大澤智子. パワーハラスメントの予防と理解. 三木市消防局職員研修. 三木市消防局. 2019/10/24. 三木
- ・ 大澤智子. 惨事ストレス研修. 初級幹部科. 島根県消防学校. 2019/10/25. 松江
- ・ 大澤智子. 性暴力被害者及び支援者への心理的支援【二次受傷】【振り返りGW】. 令和元年度徳島県性暴力被害者回復支援心理士養成研修. ときわプラザ. 2019/10/27. 徳島
- ・ 大澤智子. 被災者支援のスキルを学ぶ サイコロジカル・ファーストエイド (PFA). 災害に備えての支援者のスキルアップ研修会. 熊本テルサ. 2019/10/30. 熊本
- ・ 大澤智子. ハラスメントの予防. 初級幹部科. 兵庫県消防学校. 2019/11/1. 三木
- ・ 大澤智子. 消防職員の惨事ストレス対策について. 惨事ストレス緩和のため専門家による集団講義. 宝塚市消防本部. 2019/11/12. 宝塚
- ・ 大澤智子. (1) 指導の行い方と受けかたについて (2) パワハラを防ぐために. メンタルヘルス研修. 吹田市消防本部. 2019/11/19, 20. 吹田
- ・ 大澤智子. サイコロジカル・ファーストエイド (PFA) 講習会～被災者・支援者のところに寄り添う～. サイコロジカル・ファーストエイド (PFA) 講習会. 福島県立医科大学. 2019/11/23. 福島
- ・ 大澤智子. 消防職員のための惨事ストレス研修. 令和元年職員研修. 大牟田市消防局. 2019/11/28. 大牟田
- ・ 大澤智子. 惨事ストレスの理解と予防. 2019年度消防職員幹部教育初級幹部科. 滋賀県消防学校. 2019/11/29. 滋賀
- ・ 大澤智子. サイコロジカル・リカバリースキル (SPR) 講習会. 熊本自殺対策研修会. テトリア熊本. 2019/12/4 & 5. 熊本
- ・ 大澤智子. 消防職員のためのハラスメント予防研修. 大野市消防局職員研修. 大野市消防局. 2019/12/12. 大野
- ・ 大澤智子. 消防職員のための惨事ストレス研修. 宮崎県消防長会研修. JA. AZMホール. 2019/12/13. 宮崎
- ・ 大澤智子. サイコロジカル・リカバリースキル (SPR) 講習会. 広島県自殺対策研修会. 広島県精神保健福祉センター. 2019/12/17&18. 広島
- ・ 大澤智子. 災害時のこころの健康. 志摩市自殺対策研修会. 志摩市役所. 2019/12/21. 志摩
- ・ 大澤智子. 職員のための惨事ストレス研修. 新潟市消防局職員研修. 新潟市消防局. 2019/12/25. 新潟
- ・ 大澤智子. サイコロジカル・ファーストエイド研修. 災害看護委員会企画研修. 京都府看護協会研修センター. 2020/1/14. 京都
- ・ 大澤智子. 被災者と支援者を支えるサイコロジカル・ファーストエイド. 令和元年度 スーパーバイザークラスにおける人権研修. 大阪社会福祉指導センター. 2020/1/28. 大阪
- ・ Tomoko OSAWA. Mental Health Care for Service Providers after Disasters. JICA Training on Disaster Mitigation. JICA Kansai. 2020/1/30. Kobe
- ・ 大澤智子. 災害とこころのケアー災害時のいのちと暮らしを守る. 阪神淡路大震災25年シンポジウム. 兵庫県看護協会. 2020/2/2. 神戸

- ・ 大澤智子. 対人援助職の二次受傷とケアについて. 大阪府福祉専門職「指導者育成研修」. 大阪府庁. 2020/2/4. 大阪
- ・ 田中英三郎. 思春期のメンタルヘルス (学部講義). 金沢大学. 2019/4/25. 金沢
- ・ 田中英三郎. 災害とこころのケア (大学院講義). 兵庫県立大学. 2019/6/17. 明石
- ・ 田中英三郎. 防災教育推進指導員養成講座 [初級編]. 兵庫県立教育研修所. 2019/6/19. 加東
- ・ 田中英三郎. サイコロジカル・ファーストエイドに基づく子どものこころのケア. 日本小児科学会. 2019/7/28. 岡山
- ・ 田中英三郎、堤敦朗. サイコロジカルファーストエイド研修. 国連開発計画. 2019/9/12. ビシュケケ
- ・ 田中英三郎、堤敦朗. PTSDの診断と治療. 国連開発計画. 2019/9/13. ビシュケケ
- ・ 田中英三郎. サイコロジカルファーストエイド学校版. 兵庫県臨床心理士会. 2019/9/29. 神戸
- ・ 田中英三郎. 災害・こころのケア・国際協力 (学部講義). 兵庫県立大学. 2019/10/19. 神戸
- ・ 田中英三郎. 質的研究入門 (大学院講義). 兵庫県立大学. 2019/10/21. 神戸
- ・ 田中英三郎. 災害と精神保健. 大阪市こころの健康センター. 2019/11/19. 大阪
- ・ 田中英三郎. 災害、記憶、集合知 (学部講義). 金沢大学. 2019/11/21. 金沢
- ・ 田中英三郎. 災害精神保健. JICAア ندス災害医療マネジメントコース. 2019/11/26. 神戸
- ・ 田中英三郎. PTSD対策専門研修専門コース. 国立精神・神経医療研究センター. 2019/12/19. 東京
- ・ 田中英三郎、赤坂美幸. 子どものためのPFAとチャイルドフレンドリースペース. 倉敷市教育委員会. 2020/1/8. 倉敷
- ・ 田中英三郎. 災害精神保健. JICA災害に強いまちづくり戦略研修. 2020/2/12. 神戸
- ・ 大塚美菜子. ストレスとPTSDのケア. 神戸いのちの電話公開講座. 神戸市総合福祉センター. 2019/4/18. 神戸
- ・ 大塚美菜子. DVに関するスーパーヴィジョン研修 (第1回). 徳島県中央子ども女性センター. 2019/8/1. 徳島
- ・ 大塚美菜子. DVに関するスーパーヴィジョン研修 (第2回). 徳島県中央子ども女性センター. 2019/9/26. 徳島
- ・ 大塚美菜子. DVに関するスーパーヴィジョン研修 (第3回). 徳島県中央子ども女性センター. 2019/10/24. 徳島
- ・ 大塚美菜子. DVに関するスーパーヴィジョン研修 (第4回). 徳島県中央子ども女性センター. 2019/11/7. 徳島
- ・ 大塚美菜子. DVに関するスーパーヴィジョン研修 (第5回). 徳島県中央子ども女性センター. 2019/12/19. 徳島
- ・ 大塚美菜子. DVに関するスーパーヴィジョン研修 (第6回). 徳島県中央子ども女性センター. 2020/2/6. 徳島
- ・ 大塚美菜子. EMDRの基礎. 高知医療再生機構講演会. 高知大学医学部. 2020/2/26. 高知

(4) 学会活動

【座長】

- ・ 亀岡智美. シンポジウムD-3 虐待された子どもへの支援の最前線～児童相談所におけるトラウマケア～. 第18回日本トラウマティック・ストレス学会. 2019/6/16. 京都
- ・ 亀岡智美. 一般口演17 心的外傷・PTSD・その他. 第60回日本児童青年精神医学会総会. 2019/12/6. 那覇
- ・ 亀岡智美. シンポジウム10 愛着障害とトラウマ後遺症. 第60回日本児童青年精神医学会総会. 2019/12/7. 那覇

- ・ 亀岡智美. 国際シンポジウム トraumainフォームドケア. 第25回日本子ども虐待防止学会学術集会ひょうご大会. 2019/12/20. 神戸
- ・ 亀岡智美. 大会企画シンポジウム4 トraumainフォームドケア. 第25回日本子ども虐待防止学会学術集会ひょうご大会. 2019/12/21. 神戸

【学会役員・委員】

- ・ 加藤寛. 2011年度～現在. 日本トラウマティック・ストレス学会理事
- ・ 加藤寛. 2011年度～現在. 日本トラウマティック・ストレス学会 災害対応委員会委員長
- ・ 加藤寛. 2011年度～現在. 日本トラウマティック・ストレス学会 広報委員会委員
- ・ 加藤寛. 2017年度～現在. 日本精神神経学会 災害支援委員会委員
- ・ 加藤寛. 2018年度～現在. 福島県県民健康調査検討委員会委員
- ・ 亀岡智美. 日本トラウマティック・ストレス学会事務局長
- ・ 亀岡智美. 日本児童青年精神医学会代議員
- ・ 亀岡智美. 日本子ども虐待防止学会代議員
- ・ 亀岡智美. 日本子ども虐待医学会代議員
- ・ 亀岡智美. 日本子ども虐待医学会研究委員会委員
- ・ 亀岡智美. 日本児童青年精神医学会災害対策協力会員
- ・ 亀岡智美. 兵庫県児童虐待防止委員会委員
- ・ 亀岡智美. 大阪府社会福祉審議会児童福祉専門分科会児童措置審査部会委員
- ・ 亀岡智美. 西日本こども研修センターあかし運営委員会委員長
- ・ 亀岡智美. 尼崎市いくしあ専門家会議委員
- ・ 亀岡智美. 近畿児童青年精神保健懇話会代表世話人
- ・ 亀岡智美. 児童分析臨床研究会運営委員
- ・ 亀岡智美. 大阪自閉症研究会運営委員
- ・ 亀岡智美. 兵庫県中央こども家庭センター家庭復帰等評価委員会委員
- ・ 亀岡智美. 児童売春・児童ポルノ被害児童の保護施策に関する検証・評価専門委員会委員
- ・ 亀岡智美. ひょうごこどものこころ研究会運営委員
- ・ 亀岡智美. 日本子ども虐待防止学会第25回学術大会実行委員
- ・ 亀岡智美. 第19回日本トラウマティック・ストレス学会事務局長
- ・ 亀岡智美. 第60回日本児童青年精神医学会総会プログラム委員
- ・ 大澤智子. 2008年度～現在. 日本トラウマティック・ストレス学会理事
- ・ 大澤智子. 2008年度～現在. 日本トラウマティック・ストレス学会 国際委員会 委員
- ・ 大塚美菜子. 2012年度～現在. 日本EMDR学会人道支援プログラム IT委員

(5) 地域支援活動

- ・ 加藤寛. 復興期におけるこころのケアのあり方. 2019/6/5. 福島県立医科大学
- ・ 加藤寛. 復興期におけるこころのケアのあり方. 2019/6/6. ふくしま心のケアセンター
- ・ 加藤寛. 震災で子どもを亡くされた遺族の支援についての指導、助言. 2019/7/4. 石巻市
- ・ 加藤寛. 大澤智子. 東日本大震災復興期でのメンタルヘルス支援
 ー職域での支援と心理学的支援ー. 2019/8/1. 仙台市
- ・ 加藤寛. こころのケアについて～災害時の活動報告・事前の備え～. 2019/8/8. 福井県社会福祉センター
- ・ 加藤寛. 震災後のこころのケア（西日本豪雨災害後の中長期的心のケア）. 2019/8/22. 倉敷市
- ・ 加藤寛. みやぎ心のケアセンター活動報告（被害者の心のケア支援事業）. 2019/10/25. 仙台市
- ・ 加藤寛. 東日本大震災こころのケアセンター研修. 2019/10/16, 17. 気仙沼保健所、南三陸役場
- ・ 加藤寛. 震災後の長期支援と災害からのレジリエンス（回復力）. 2020/1/8. 仙台市医師会館
- ・ 加藤寛. 災害復興期のこころのケア. 2020/3/4. 真備公民館
- ・ 亀岡智美. 子どものPTSDアセスメント. 子どものPTSDアセスメント研修. 東北大学大学院医学系研究科精神医学分野兼予防精神医学寄付講座. 2019/9/6. 仙台
- ・ 大澤智子. 京都アニメーション放火事件後のこころのケア活動. 消防庁緊急時メンタルサポートチーム. 消防庁. 2019/8/23. 京都
- ・ 大澤智子. 京都アニメーション放火事件後のこころのケア活動. 消防庁緊急時メンタルサポートチーム. 消防庁. 2019/9/13. 伏見
- ・ 大澤智子. 職員死亡後のこころのケア活動. 宝塚市消防局. 2019/11/12. 宝塚
- ・ 大澤智子. ヒヤリハット後のこころのケア活動. 第五管区海上保安本部. 2020/1/23, 1/29, 2/7. 神戸
- ・ 桃田茉莉. ストレスマネジメント研修. 2020/3/18. 尾道市（延期）

(6) その他

- ・ 亀岡智美. 2013年～. 大阪府子ども家庭センター「TF-CBT症例検討会議」講師
- ・ 亀岡智美. 2017年度. 兵庫県中央こども家庭センター児童虐待等対応専門アドバイザー
- ・ 大澤智子. 2004年度～現在. 兵庫県警察本部 犯罪被害相談員
- ・ 大澤智子. 2004年度～現在. 千葉県警察本部 外部スーパーバイザー
- ・ 大澤智子. 2010年度～現在. 総務省消防庁 緊急時メンタルサポートチーム
- ・ 大澤智子. 2013年度～現在. 第五管区海上保安本部 メンタルヘルス対策アドバイザー
- ・ 田中英三郎. ヨルダン国内の難民も含めた子どもの精神保健・心理社会的支援に関する基礎情報収集調査団. JICA. 2020/2/22-29

（注）本センターの刊行物掲載分及び主催事業分等は除く。

兵庫県こころのケアセンター 令和元年度事業報告書

公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
兵庫県こころのケアセンター
〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3番2号
TEL (078) 200-3010
FAX (078) 200-3017



公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構
兵庫県こころのケアセンター